

新丸山ダム建設事業 (事業費等の監理状況)

令和8年 7月29日
国土交通省 中部地方整備局
新丸山ダム工事事務所

目次

1. 事業の概要		4. 令和8年度予算	
1) 流域の概要・現状	1	1) 実施内容	18
2) 事業の目的及び計画内容	3	2) 事業実施箇所	19
3) 事業の経緯	6	3) 個別説明	20
4) 事業の全体工程	7		
5) 事業の進捗状況	9	(1) ダム本体関係 工事費	20
		(2) 用地補償関係 用地費及び補償費	22
2. 令和7年度予算		(3) 付替道路工事関係 用地費及び補償費	23
1) 実施内容	11		
2) 事業実施箇所	12	5. これまでに把握した状況変化	24
3) 個別説明	13		
		6. 本事業における工期短縮・コスト縮減	25
(1) ダム本体付属関係 工事費	13		
(2) ダム本体関係 測量設計費	14	7. 本事業における取り組み	27
(3) 付属道路関係 測量設計費	15		
(4) 付属道路関係 用地費及び補償費	16		
3. 第3回計画変更(R6.8)後の事業費増減	17		

1. 事業の概要

1) 流域の概要・現状

木曽川は幹川流路延長229km、流域面積5,275km²の我が国有数の大河川。
流域市町村には、約230万人（20市13町4村）の人々が生活しており、この地域の産業・経済・社会・文化の発展の基盤を築いてきた。



位置図



丸山ダム(昭和31年3月完成)

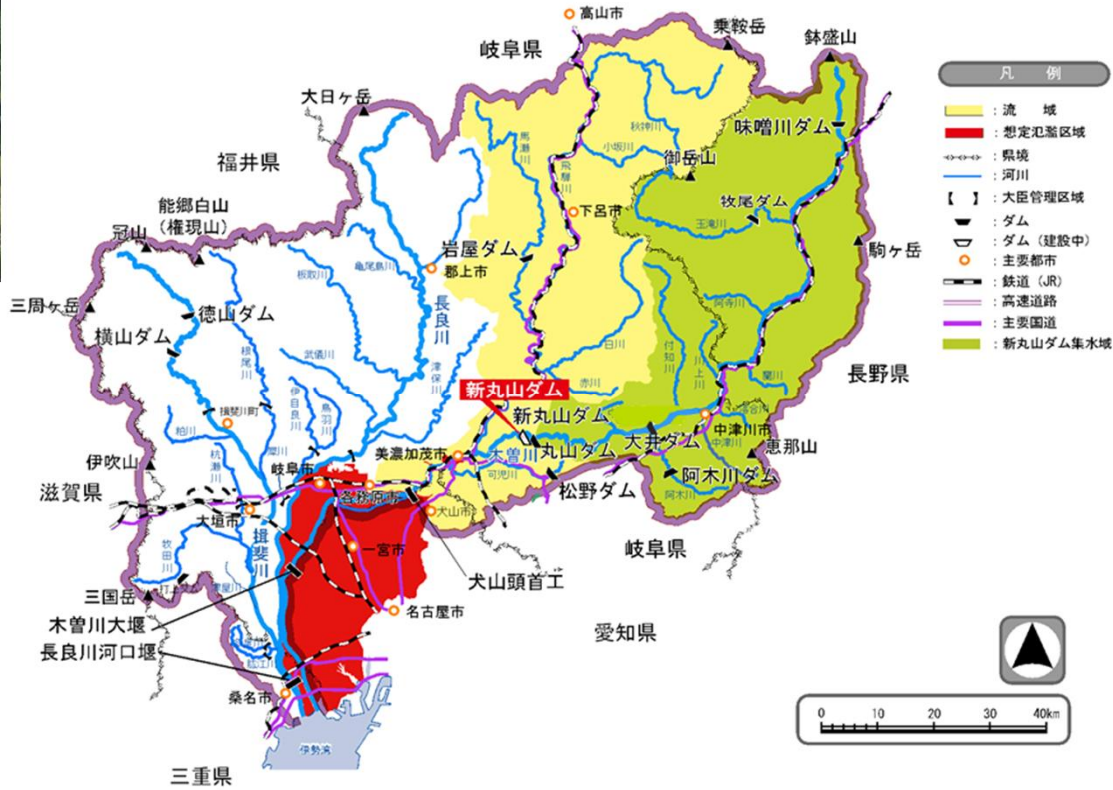
木曽川の流域概要

流域面積	5,275 km ²
幹川流路延長	約 229 km
流域市町村数 ^{※1}	20 市 13 町 4 村
流域市町村人口 ^{※1,2}	約 230 万人

※1 流域市町村

- (長野県) 上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村
(岐阜県) 高山市、中津川市、瑞浪市、恵那市、美濃加茂市、可児市、郡上市、下呂市、坂祝町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御嵩町、関市、各務原市、岐阜市、岐南町、羽島市、海津市、笠松町
(愛知県) 犬山市、江南市、扶桑町、一宮市、稲沢市、愛西市、弥富市
(三重県) 桑名市、木曽岬町

※2 出典: 令和2年国勢調査(総務省)



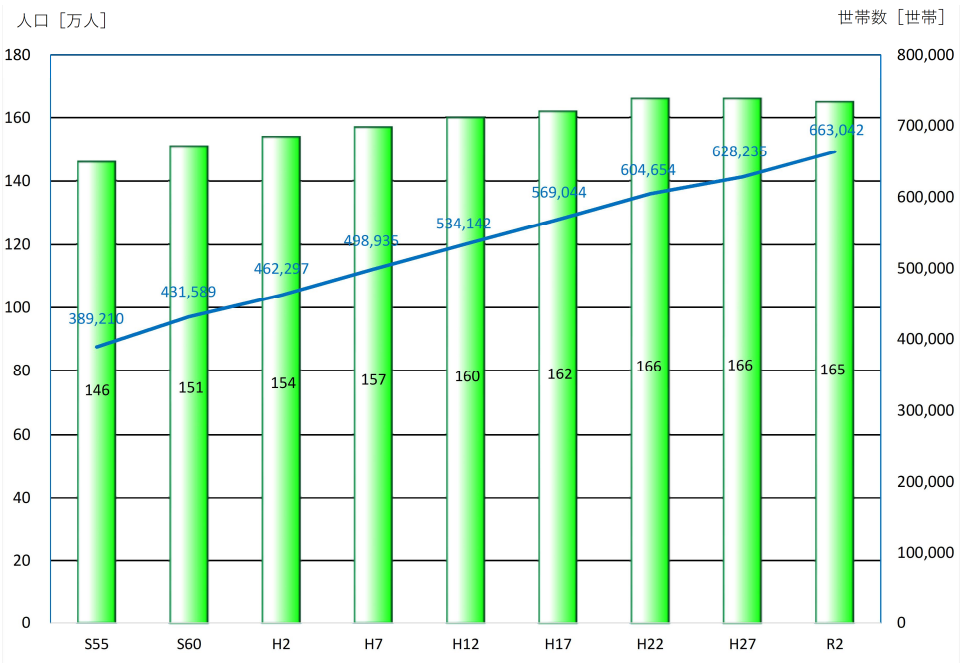
木曽川・長良川・揖斐川 流域図

1. 事業の概要

1) 流域の概要・現状

木曽川流域内は、名神高速道路等の高速道路、JR東海道新幹線等、国土の基幹をなす交通の要衝となっている。
沓瀬原内市町村の人口は近年大きな変化はなく、東海環状自動車道、リニア中央新幹線等の整備により、地域開発や市街化が進むことが予想される。

◆沓瀬原内市町村の人口推移

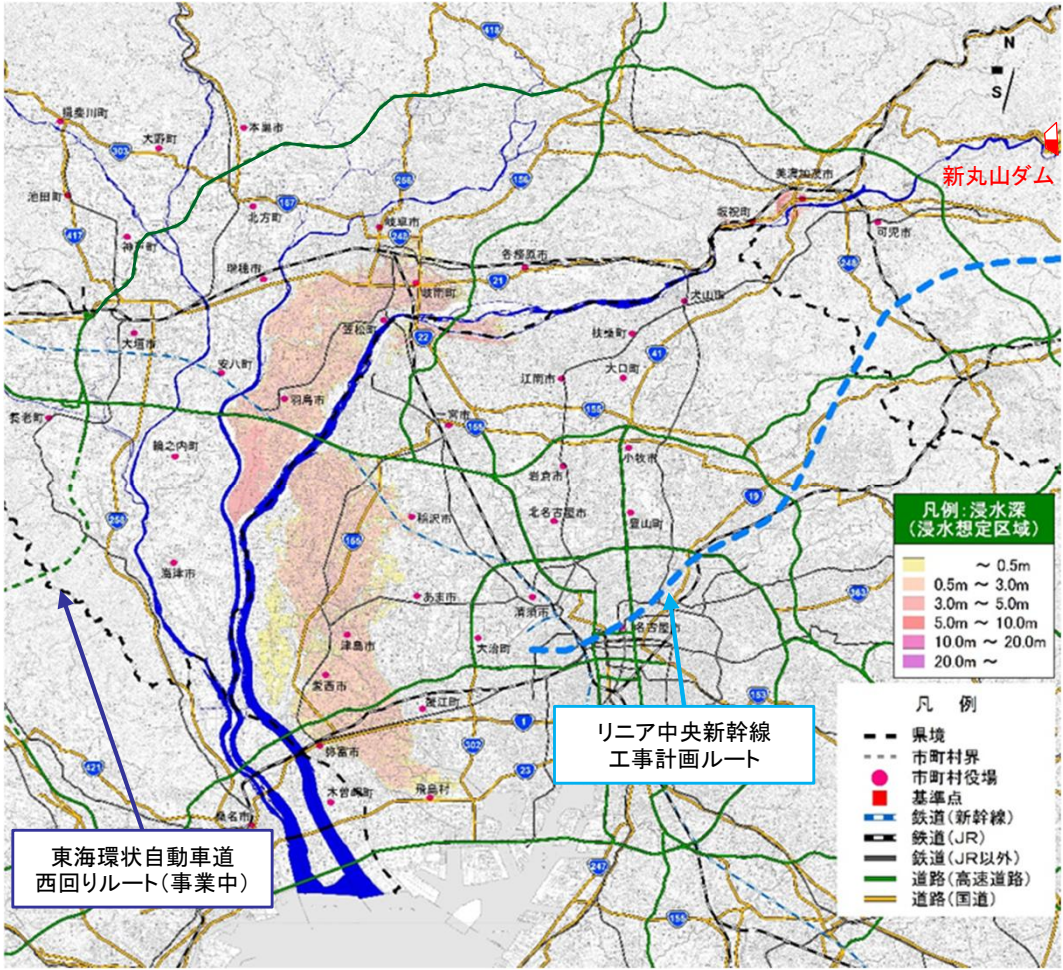


沓瀬原内市町村
11市4町1村

【岐阜県】...美濃加茂市、岐阜市、各務原市、可児市、羽島市、坂祝町、
ぎなんちよう かさまつちよう
岐南町、笠松町
【愛知県】...江南市、一宮市、稲沢市、愛西市、弥富市、津島市、蟹江町、
こうなんし いちのみやし いなざわし あいさいし やとみし つしまし かにえちよう
とびしまむら
飛島村

出典) 国勢調査(総務省統計局ウェブサイト)より

◆流域周辺の主要交通網



※河川整備計画の目標規模の大雨が降ったことにより想定される現行浸水想定区域

2)事業の目的及び計画内容

国内最大級のかさ上げにより木曽川流域の安全・安心を守る

(1)事業の目的

■既設丸山ダムの再開発により、洪水調節機能を増強させ、木曽川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守ると共に、新たに流水の正常な機能の維持の容量確保及び発電の増量を行う。

(2)計画内容

○実施箇所(木曽川水系木曽川):(左岸)岐阜県可児郡御嵩町 (右岸)岐阜県加茂郡八百津町

○計画内容

<洪水調節>

戦後最大の昭和58年9月洪水と同規模の洪水に対して、基準地点犬山において約3,200m³/sの流量を低減させる。

<流水の正常な機能の維持>

1,500万m³の容量を用いて既得用水の取水の安定化及び河川環境の保全等のための流水を確保する。

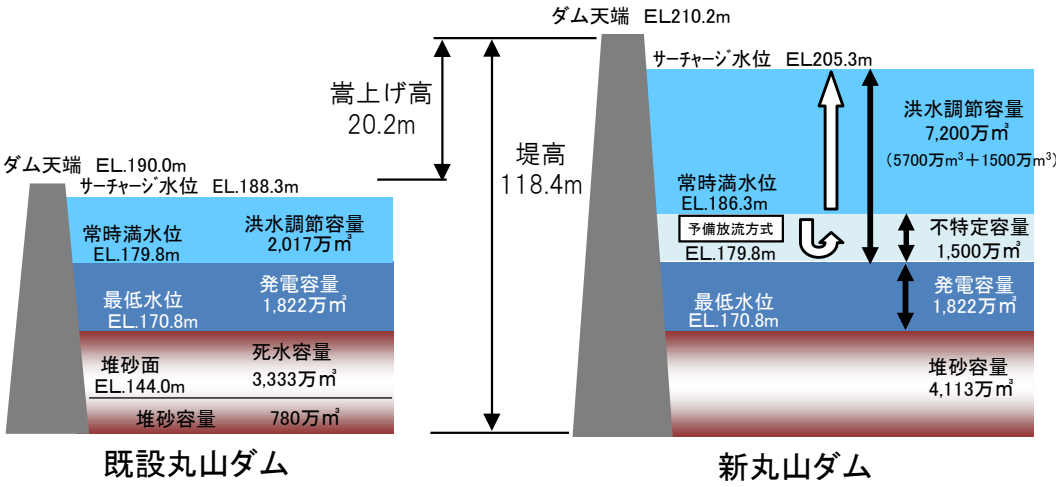
<発電>

既設の丸山発電所及び新丸山発電所において発電を行う。

新丸山ダム完成前後のダムの諸元

	丸山ダム	新丸山ダム	差分
形式	重力式 コンクリートダム	重力式 コンクリートダム	—
堤高	98.2 m	118.4 m	20.2 m
堤頂長	260.0m	340.6m	80.6m
流域面積	2,409 km ²	2,409 km ²	—
湛水面積	2.63 km ²	3.68 km ²	1.05 km ²
総貯水容量	7,952 万m ³	13,135 万m ³	5,183 万m ³
有効貯水容量	3,839万m ³	9,022万m ³	5,183万m ³

貯水池容量配分図

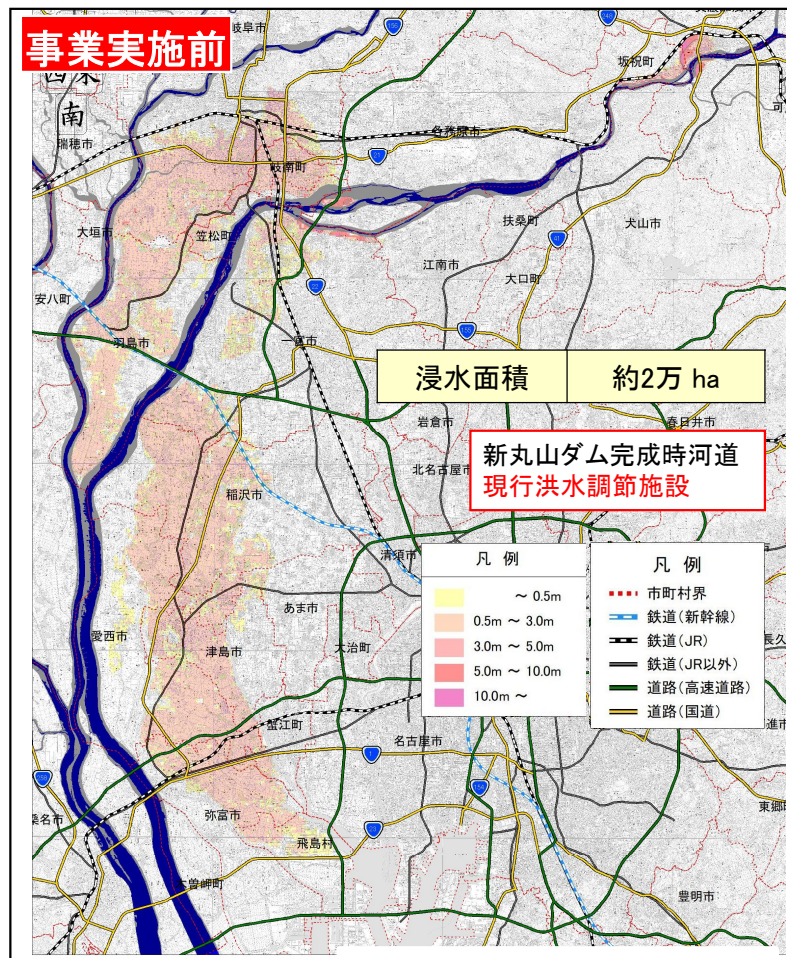


※不特定容量・・・河川における流水の正常な機能を維持するために必要な容量

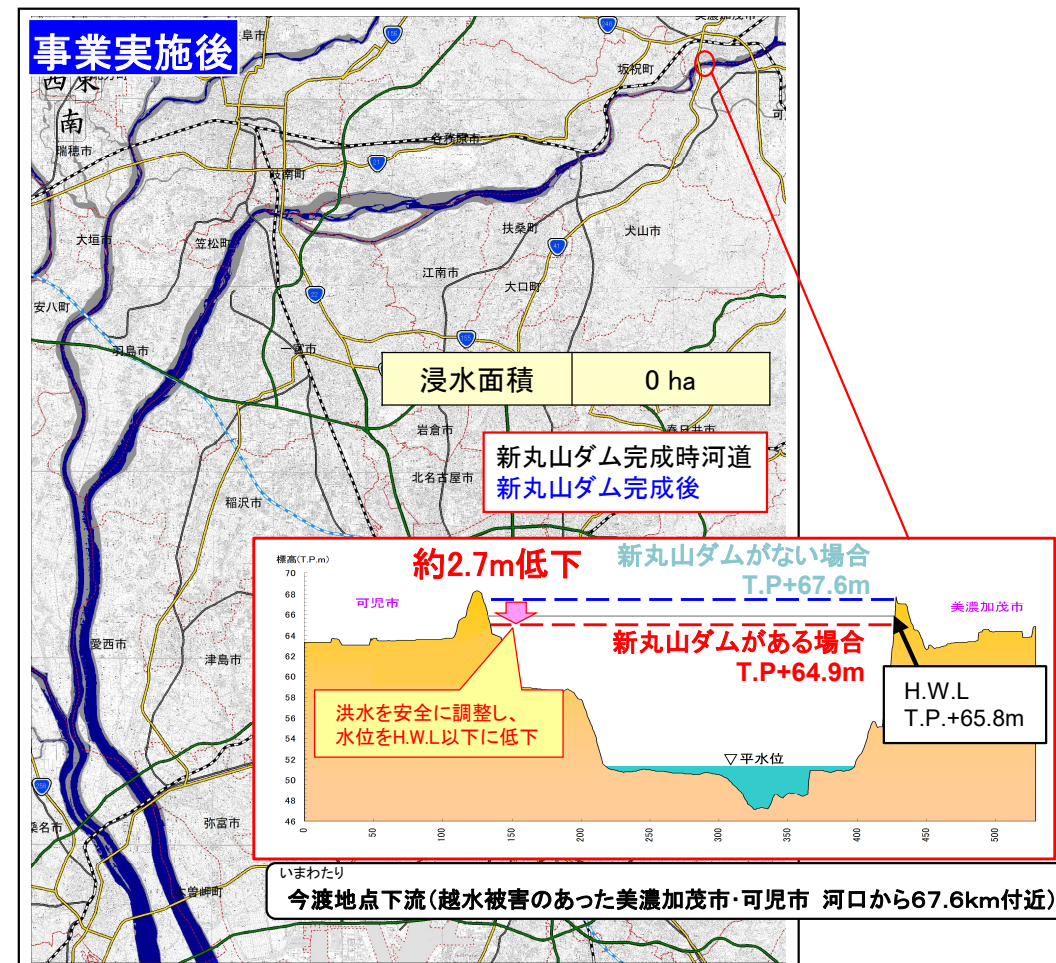
2)事業の目的及び計画内容

(3)事業の効果

- (洪水調節)戦後最大洪水となる昭和58年(1983)9月洪水と同規模の洪水に対して、越水被害のあった今渡地点下流の水位を約2.7m低下させ、浸水被害を解消する。
- (流水の正常な機能の維持)既設阿木川ダム及び味噌川ダムの不特定補給とあわせて、既得取水の安定化を図るとともに、1/10規模の渇水に対して、木曽成戸地点において河川環境の保全等のために必要な流量50m³/s(維持流量)の一部である40m³/sを確保(確保流量)できる。
- (発電)丸山発電所及び新丸山発電所における最大出力を188,000kWから210,500kWに増量する。



事業実施前の氾濫想定図(河川整備計画目標規模)

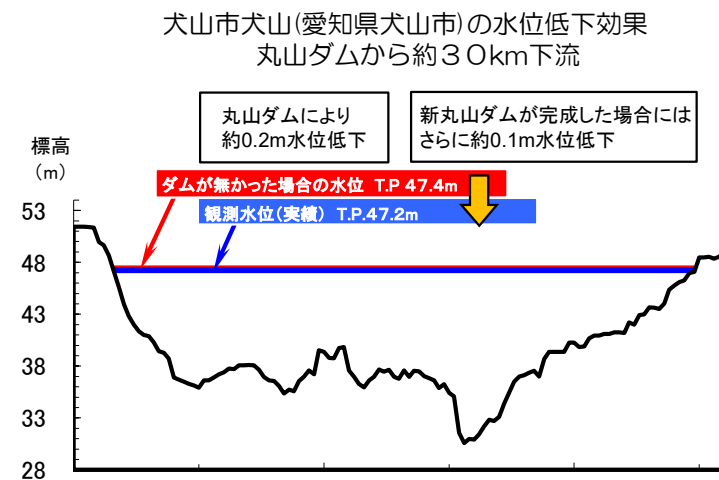
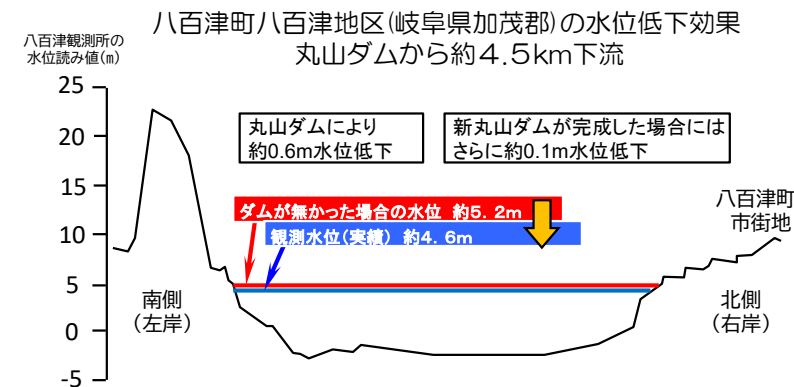
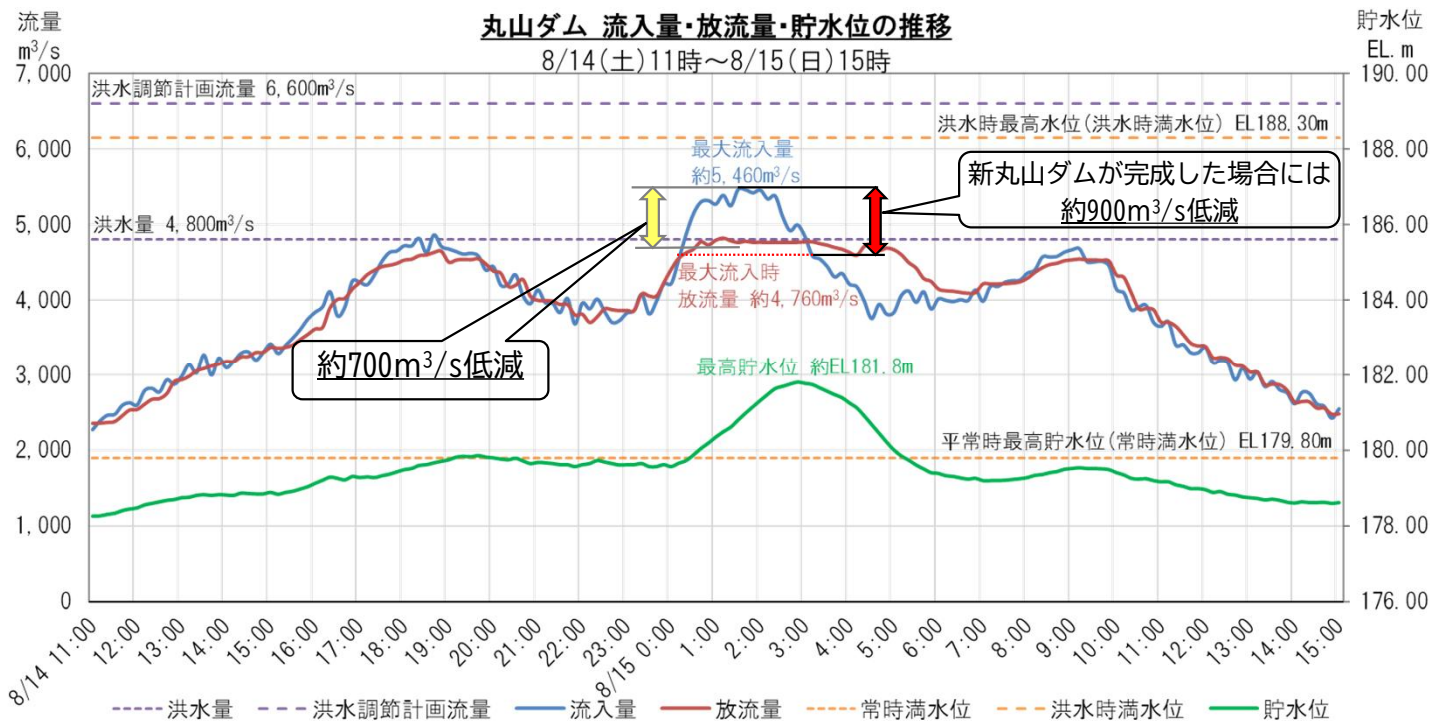


事業実施後の氾濫想定図(河川整備計画目標規模)

2)事業の目的及び計画内容

(3)事業の効果(R3.8出水の効果)

- 令和3年8月13日(金)から15日(日)にかけて南から暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込み、丸山ダム流域では、降り始めから8/15(日)14時までの累計の降雨量が380mmに達した。
- 丸山ダムでは、8/14(土)夜のはじめから8/15(日)未明にかけて、流れ込む洪水の量が特に増加したため、洪水の一部を貯め込む防災操作(洪水調節)を実施した。
- 丸山ダムによる洪水の貯留により、八百津町八百津地区地点の水位を約0.6m低下(新丸山ダムが完成した場合には、さらに水位を約0.1m低下)、愛知県犬山市犬山地点の水位を約0.2m低下(新丸山ダムが完成した場合には、さらに水位を約0.1m低下)

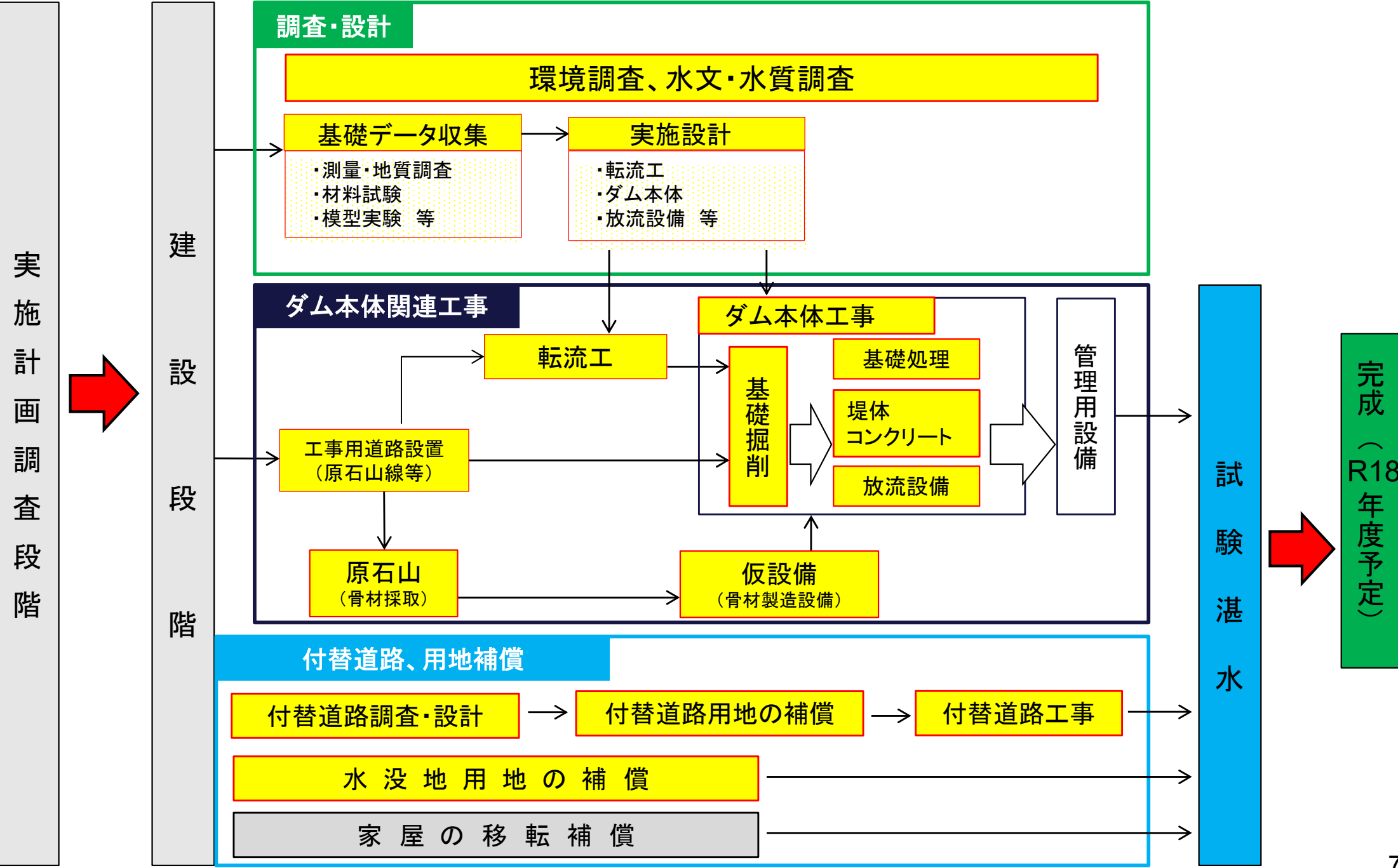


3)事業の経緯

昭和55年	4月	実施計画調査着手
昭和61年	4月	建設事業着手
平成 2年	5月	特定多目的ダム法の基本計画告示(事業費(約1,800億円),工期(平成14年度))
平成 4年	3月	用地補償基準妥結
平成 4年	8月	水没地用地買収着手
平成 8年	3月	国道418号付替道路工事着手
平成14年	3月	水没等家屋移転補償契約(全49戸)完了
平成17年	6月	基本計画変更告示(工期変更(平成28年度))
平成19年	11月	木曽川水系河川整備基本方針策定
平成20年	3月	木曽川水系河川整備計画策定
平成21年	12月	検証の対象とするダム事業に選定
平成22年	3月	国道418号付替道路 八百津～潮南区間の供用開始
平成22年	12月	「新丸山ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」を設立(H22.12.22) (平成22年12月22日から平成25年4月19日まで5回の「幹事会」と2回の「検討の場」を開催)
平成25年	7月	国土交通大臣による対応方針[継続]の決定(H25.7.31)
平成27年	1月	木曽川水系河川整備計画(変更)を公表
平成27年	2月	国道418号付替道路(潮南以東区間)工事着手
平成27年	7月	基本計画変更告示(工期変更(令和11年度)事業費変更(2,000億円))
平成28年	9月	転流工工事着手
平成29年	10月	付替県道井尻八百津線の供用開始
令和3年	3月	丸山ダムを特定多目的ダム法に基づく「特ダム化」する手続きが完了
令和3年	12月	ダム本体工事着手
令和5年	3月	「新丸山ダム周辺地域振興ビジョン」の策定
令和6年	8月	基本計画変更告示(工期変更(令和18年度)事業費変更(4,100億円))
令和7年	11月	新丸山ダム定礎式 開催

4) 事業の全体工程

: 完了箇所 : 現在実施中箇所 (令和8年3月末時点)

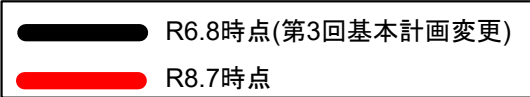


4) 事業の全体工程

○令和3年度からダム本体工事に着手。設計及び関連工事を実施中。令和7年3月から本体打設を開始し、継続している。

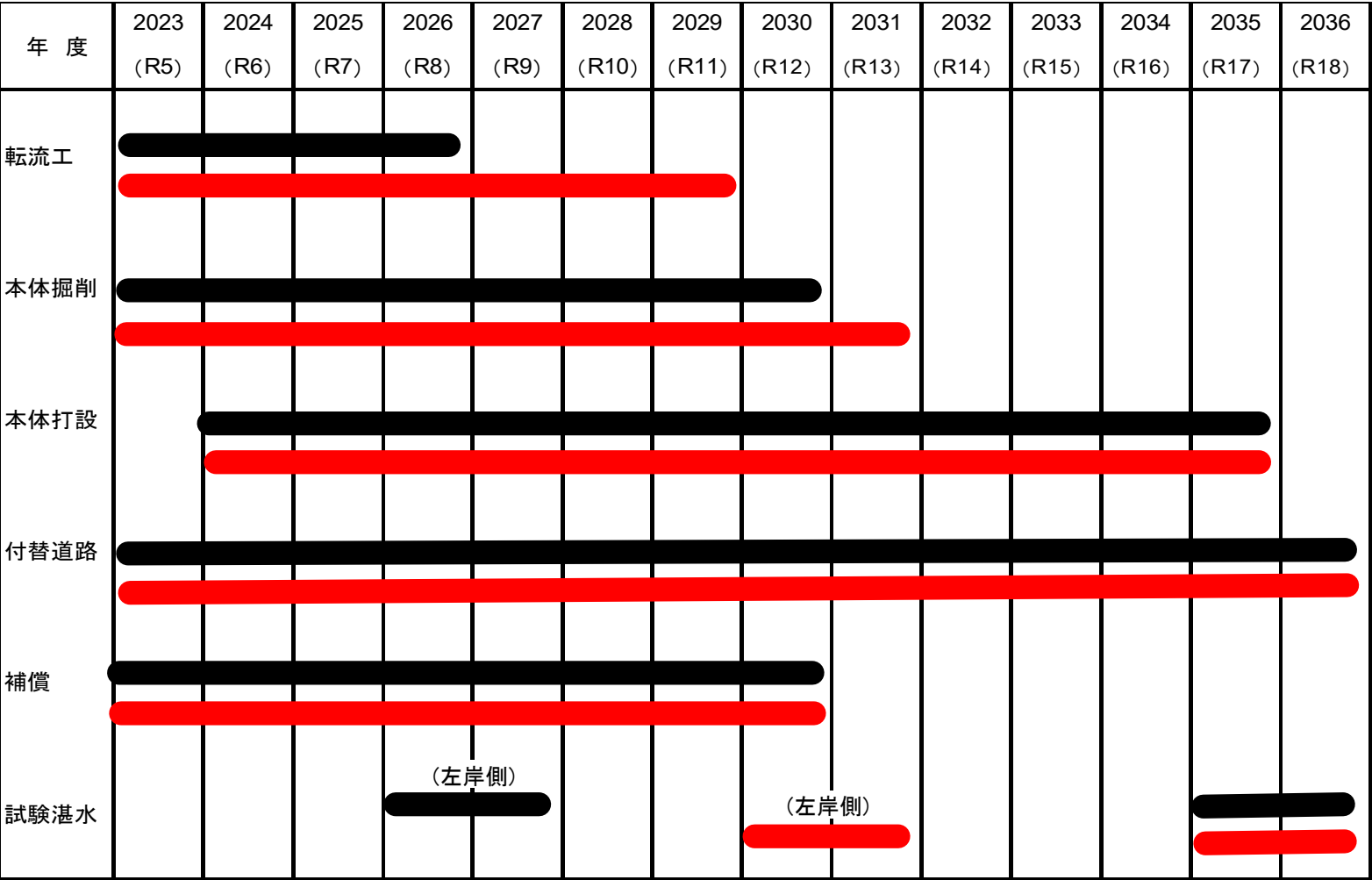
○転流工の工事を継続するとともに、付替国道418号の八百津町潮南地区しおなみから恵那市飯地地区いいじの延長約3.5km及び、付替県道大西瑞浪線おおにしみずなみの約0.9kmの整備を実施する。

○事業工程

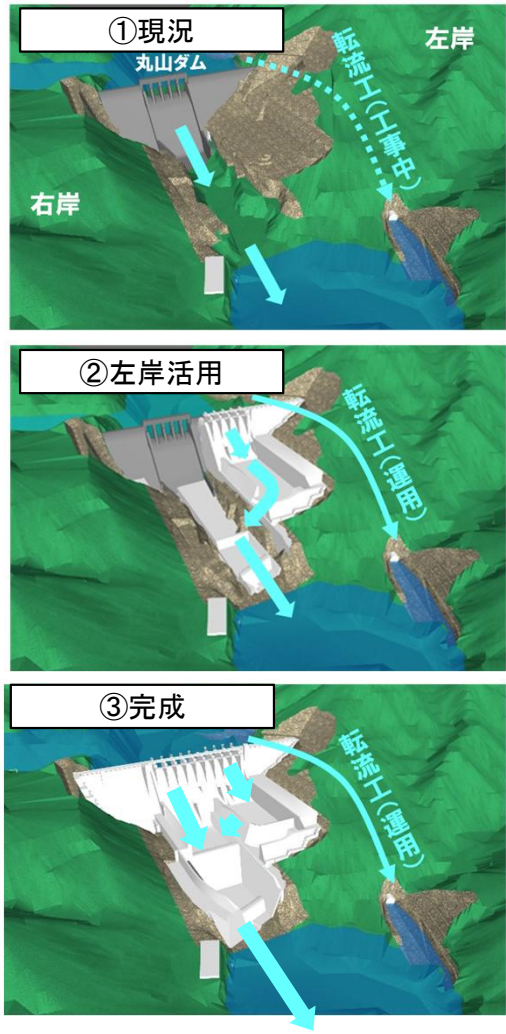


※工程は、現時点の予定であり、今後の状況等により変更となる場合がある

※実施年度予算ベースに対しての着色



○施工ステップ図

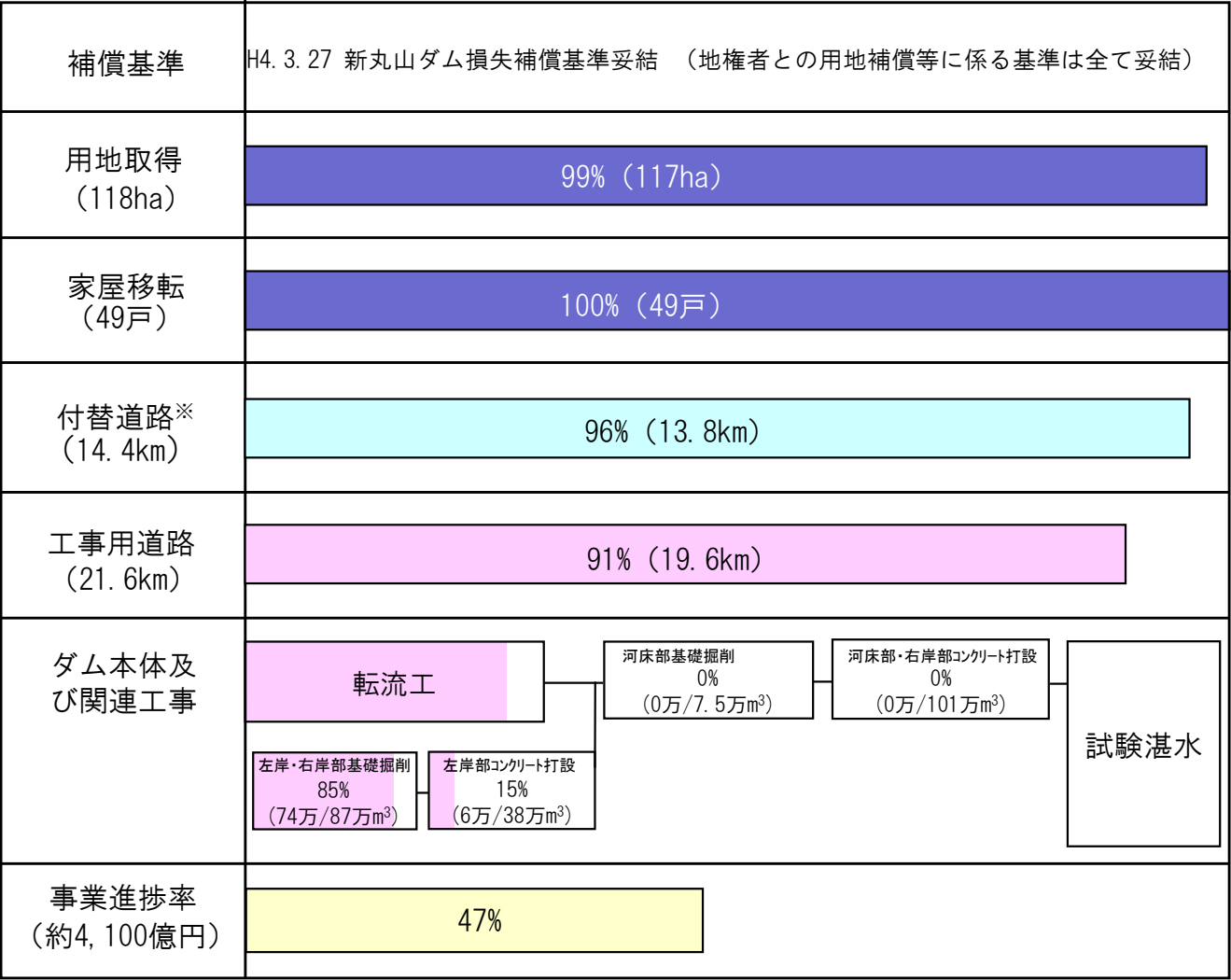


5) 事業の進捗状況

○ 予算執行状況

- ・総事業費 約4,100億円
(うちリスク対策費約270億円を含む)
- ・R 7年度 約230.1億円
(補正予算含む)
- ・R 8年度 約168.3億円
- ・R 7年度迄 約1,911億円
(進捗率 約47%)

(令和8年3月末時点)



用地取得 付替工事 本体関連 事業費

※ 付替道路は道路工事が着手された工事の施工延長の進捗率

5)事業の進捗状況



位置図



堤体 (下流より上流を望む)



写真撮影日：令和8年6月



国道418号7号橋(仮称)八百津町潮見側

2. 令和7年度予算

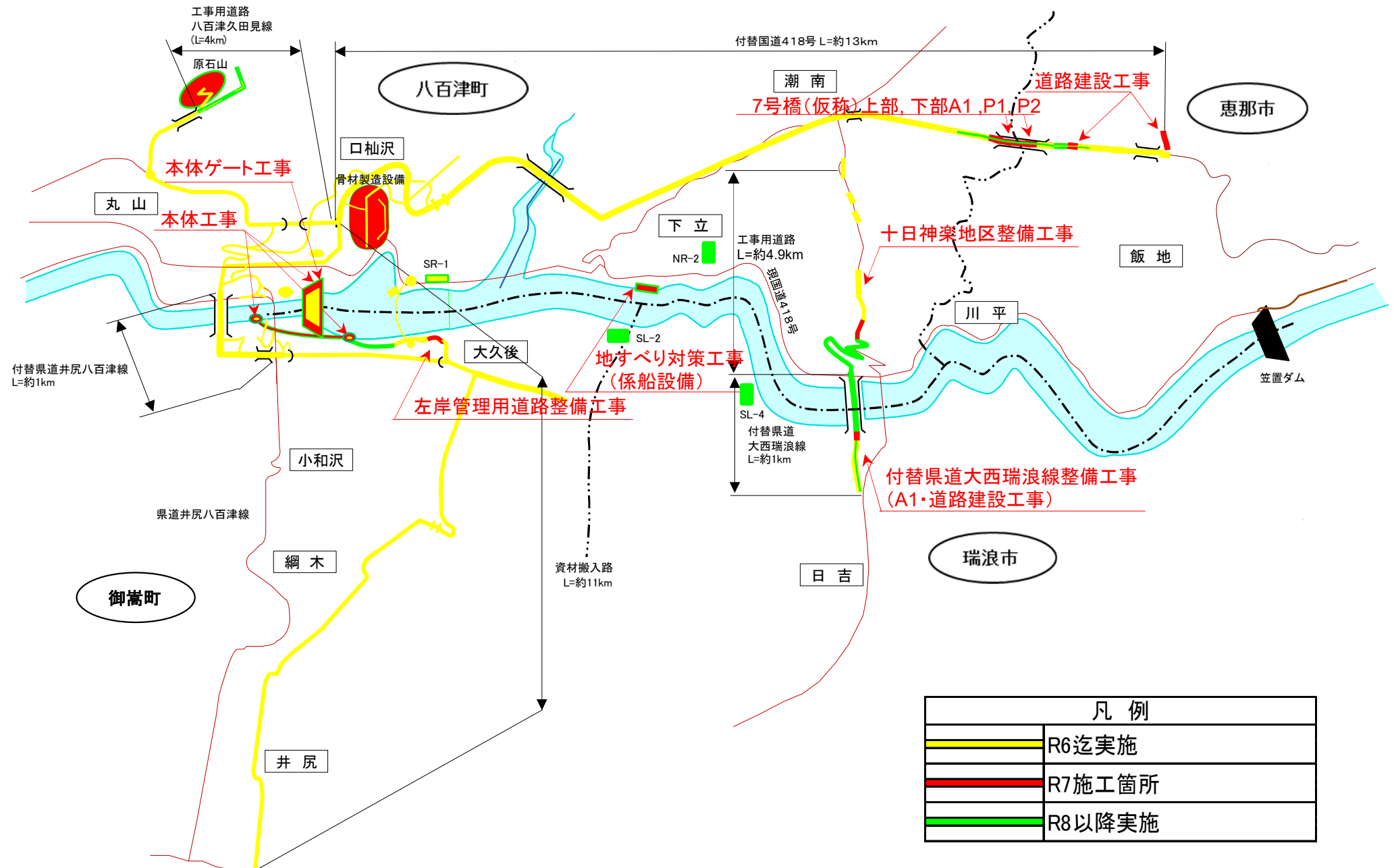
1)実施内容

○令和7年度予算額

単位：百万円

予算費目		当初予算の主な実施内容	令和7年度当初予算				令和6年度補正予算			
			当初	変更	(増減額)	主な変更要因	補正	変更	(増減額)	主な変更要因
工事費			約 10,016.5	約 10,218.2	(201.7)		約 861.0	約 861.0	(0.0)	
	①施設維持等	工食用道路等の施設の維持・補修	約 77.5	約 105.7	(28.2)	【その他増】維持・補修工事における実施数量の増。	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
	②転流工関係	転流工工事	約 8,629.0	約 8,453.8	(-175.2)	【その他減】落札差金による減	約 861.0	約 861.0	(0.0)	
	③ダム本体関係	ダム本体工事、ダム本体ゲート工事				【先送り減】本体工事の工程見直しに伴う、係船設備等の先送りによる減				
	④ダム本体付属関係	原石山線、工食用道路整備地すべり対策工事	約 497.2	約 838.9	(341.8)	【前倒し増】SL-2.4地すべり対策に伴う係船設備工事において、工事の前倒しによる増。 左岸管理用道路整備工事において、工事の前倒しによる増 (373)	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
	⑤管理設備関係	発電設備、受電設備設置等	約 685.0	約 707.9	(22.9)	【その他増】実施数量の精査による増	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
	⑥その他	工事監督支援等	約 127.8	約 111.9	(-16.0)	【その他減】落札差金及び実施数量の精査による減	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
測量設計費			約 1,302.1	約 1,452.1	(150.0)		約 210.0	約 210.0	(0.0)	
	①継続調査	水理水文調査、環境調査	約 101.9	約 108.6	(6.7)	【その他増】実施数量の精査による増	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
	②ダム本体関係	堤体設計、地すべり調査等	約 324.0	約 443.1	(119.1)	【純増】コスト縮減にむけて、既設導流壁の残置により撤去費用・コンクリート打設数量を縮減する検討を実施したことによる増(130) 【その他減】実施数量の精査による減	約 123.0	約 103.1	(-19.9)	【その他減】実施数量の精査による減
	③付替道路関係	付替道路設計等	約 100.0	約 189.9	(89.9)	【純増】町道十日神楽線において小崩落の発生が確認できたため、長大法面回避のため道路線形を見直し、追加で調査設計を実施したことによる増 (56) 【その他増】実施数量の精査による増	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
	④用地調査関係	用地調査等	約 121.0	約 87.5	(-33.5)	【その他減】落札差金・実施数量の精査による減	約 17.0	約 4.0	(-13.0)	【その他減】実施数量の精査による減
	⑤その他	発注者支援等	約 655.2	約 623.1	(-32.2)	【その他減】実施数量の精査による減	約 70.0	約 102.9	(32.9)	【その他増】実施数量の精査による増
用地費及び補償費			約 4,768.0	約 4,426.6	(-341.4)		約 265.0	約 265.0	(0.0)	
	①用地補償関係	関西電力（株）等の特殊補償、用地補償	約 2,870.0	約 2,621.9	(-248.1)	【その他減】補償金額の精査による減 新丸山発電所の補償工事における発電停止期間中の減電補償額について、実績の精査による減	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
	②付替道路工事関係	国道418号、大西瑞浪線の付替道路工事	約 1,898.0	約 1,804.6	(-93.4)	【純増】擁壁部の軟弱地盤に対して、ルートバイル工等の対策工法を追加で実施したことによる増 (79) 【先送り減】重金属対応に伴う判定ヤードの整備を行ったことによる増 (42) 【その他減】重金属対応にあたり判定ヤード整備を行ったことで、工事全体の遅延が発生し、新五月橋仮橋・橋台工事を先送りしたことによる減 実施数量の精査による減	約 265.0	約 265.0	(0.0)	
船舶及び機械器具費			約 66.8	約 55.6	(-11.2)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
	①電気通信施設保守点検等	電気通信保守点検等	約 66.8	約 55.6	(-11.2)	【その他減】実施数量の精査による減	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
事業車両費			約 5.9	約 6.8	(0.9)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
	①車両管理関係	車両管理・点検等	約 5.9	約 6.8	(0.9)	【その他増】実施数量の精査による増	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
工事諸費等			約 631.6	約 631.6	(0.0)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
	①営繕・宿舍・車両・広報費等	車両・広報費等	約 631.6	約 631.6	(0.0)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
予算額			約 16,790.9	約 16,790.9	(0.0)		約 1,336.0	約 1,336.0	(0.0)	

2) 事業実施箇所



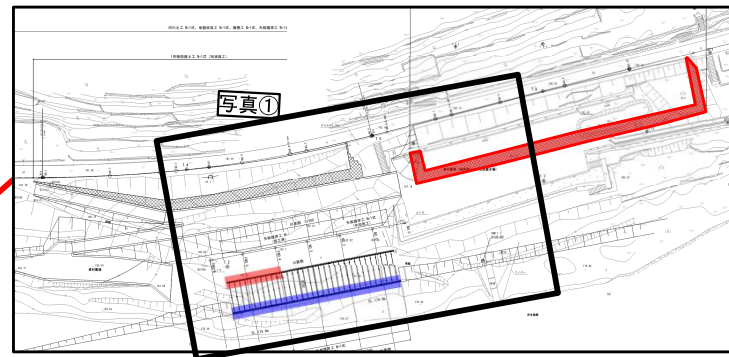
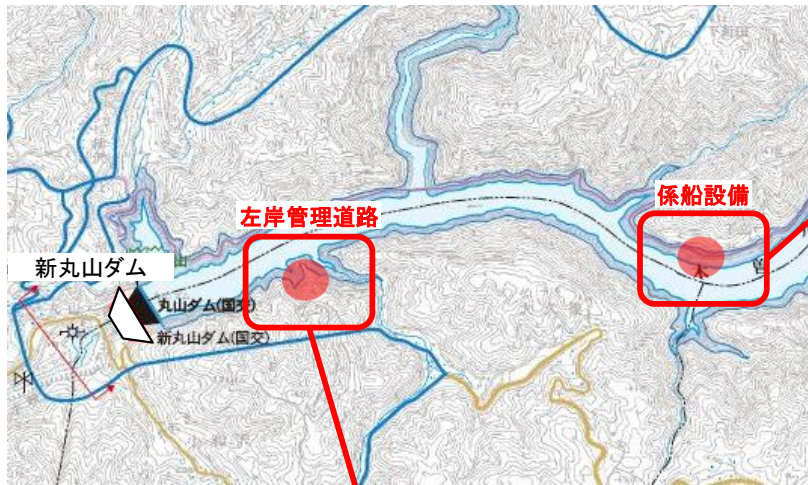
3)個別説明

(1)ダム本体付属関係 工事費

変更要因

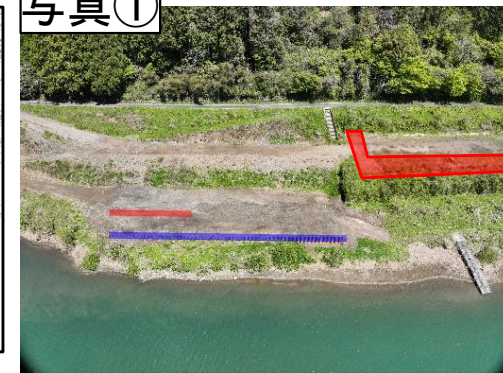
【373百万円 前倒し増】

地すべり対策に伴う係船設備工事において、工事の前倒しを行い工事進捗を図る。
左岸管理用道路整備工事において、工事の前倒しを行い工事進捗を図る。



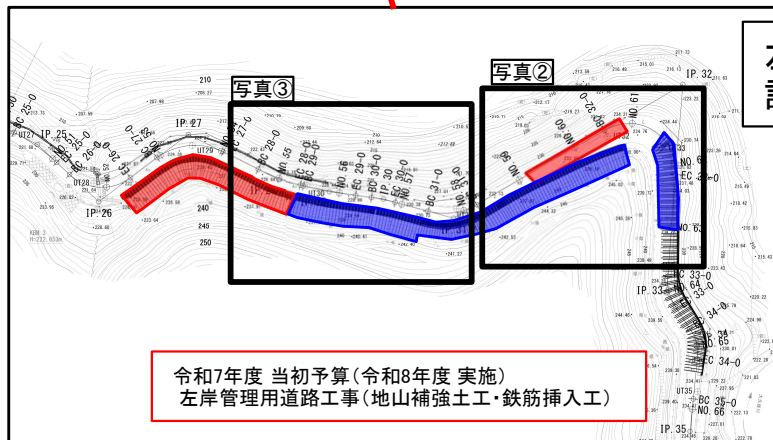
令和7年度 当初予算(令和8年度 実施)
係船設備工事(矢板護岸工・補強土壁工)

写真①



凡 例

- R7年度予算施工箇所 (Red line)
- 施工済み箇所 (Blue line)



令和7年度 当初予算(令和8年度 実施)
左岸管理用道路工事(地山補強土工・鉄筋挿入工)

写真②



写真③



3) 個別説明

(2) ダム本体関係 測量設計費

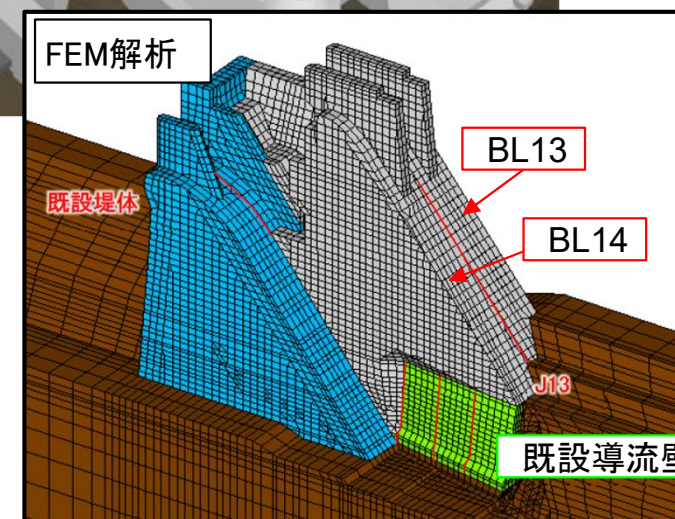
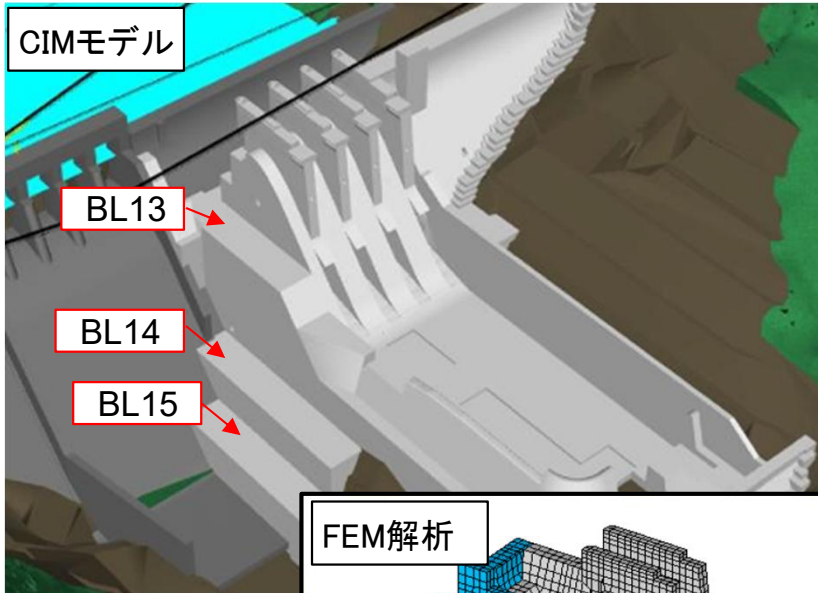
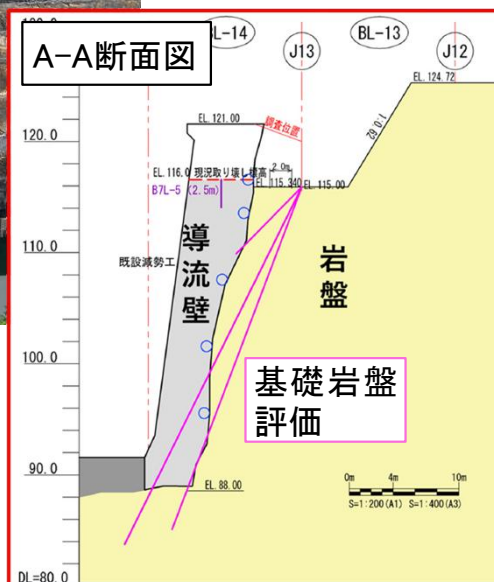
変更要因

【130百万円 純増】

工期短縮・コスト縮減にむけて、既設導流壁を撤去したのちに堤体打設する計画から、導流壁を一部残置して堤体打設する方法へ変更するため、基礎岩盤の評価やFEM解析等の追加検討を実施したことによる増。

一時的に測量設計費が増加するが、工事費は縮減される見込み。また、コンクリート量の縮減による環境負荷の低減も期待できる。

本体左岸部



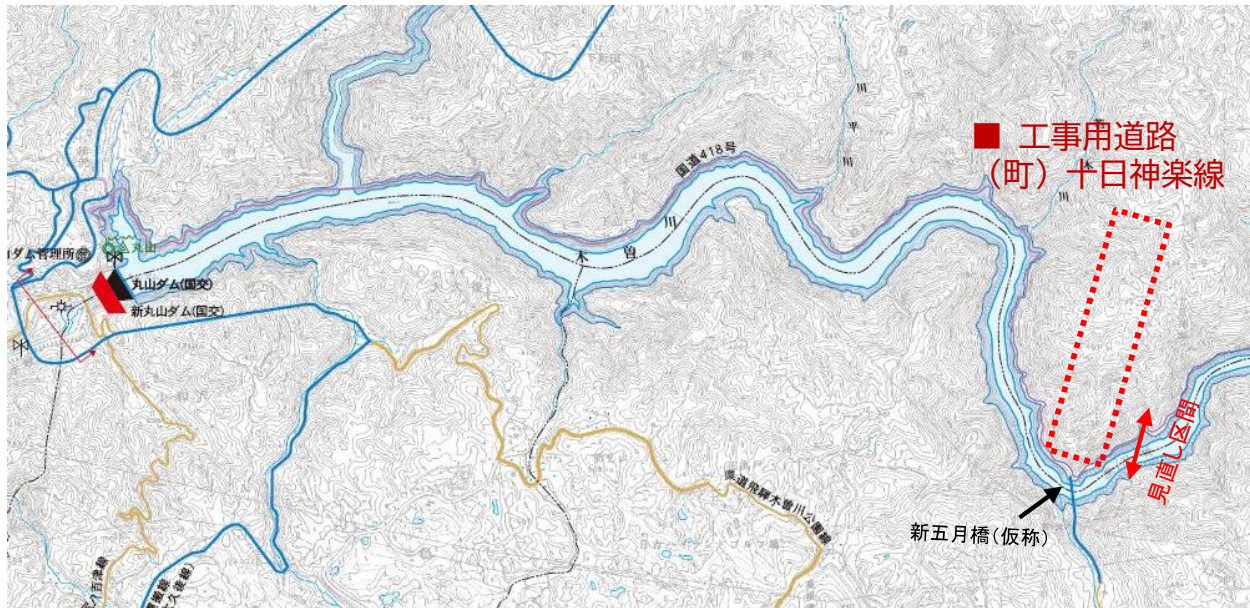
3) 個別説明

(3) 付属道路関係 測量設計費

変更要因

【56百万円 純増】

工期短縮・コスト縮減にむけて、構造物の規模縮小により整備期間及び整備費用・維持管理費用を抑えるため道路線形の見直し、各種調査設計（地質調査、設計業務）に伴う増
一時的に測量設計費が増加するが、工事費は縮減される見込み。



十日神楽線線形見直し

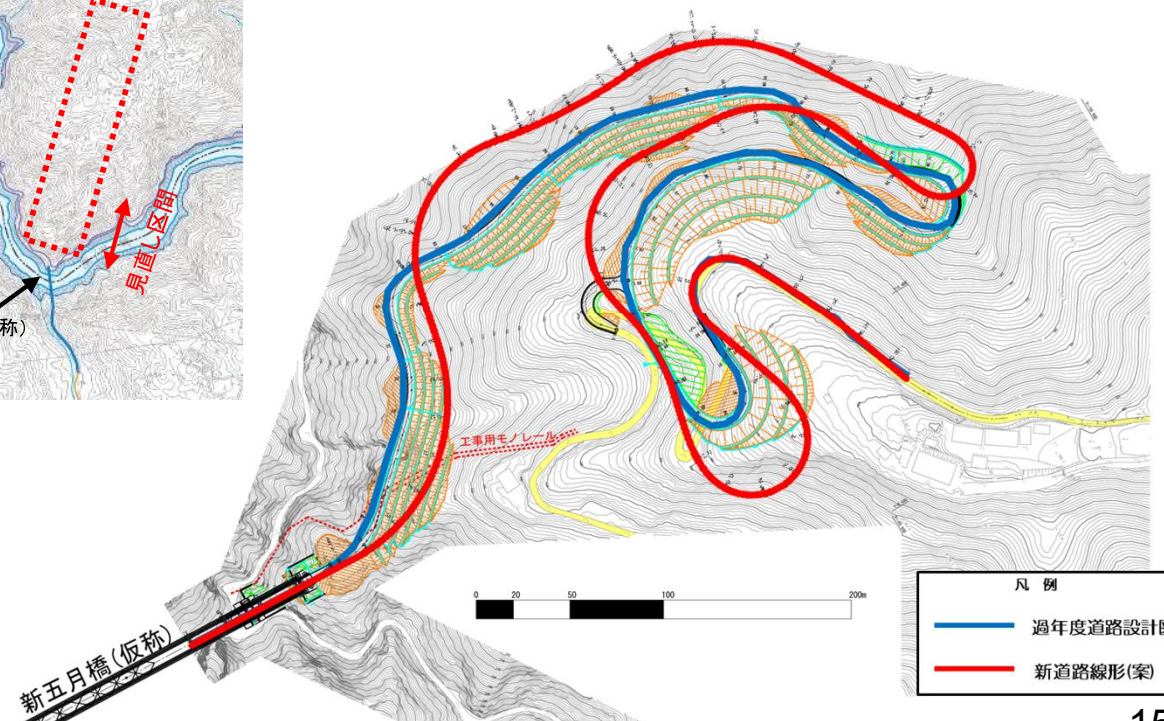
■ 縮減効果（予定）

大規模切土削減：切土6段→3段

グラウンドアンカー大幅低減：

総延長6,150m→ゼロ

擁壁高縮小：最大5m低減



3) 個別説明

(4) 付属道路関係 用地費及び補償費

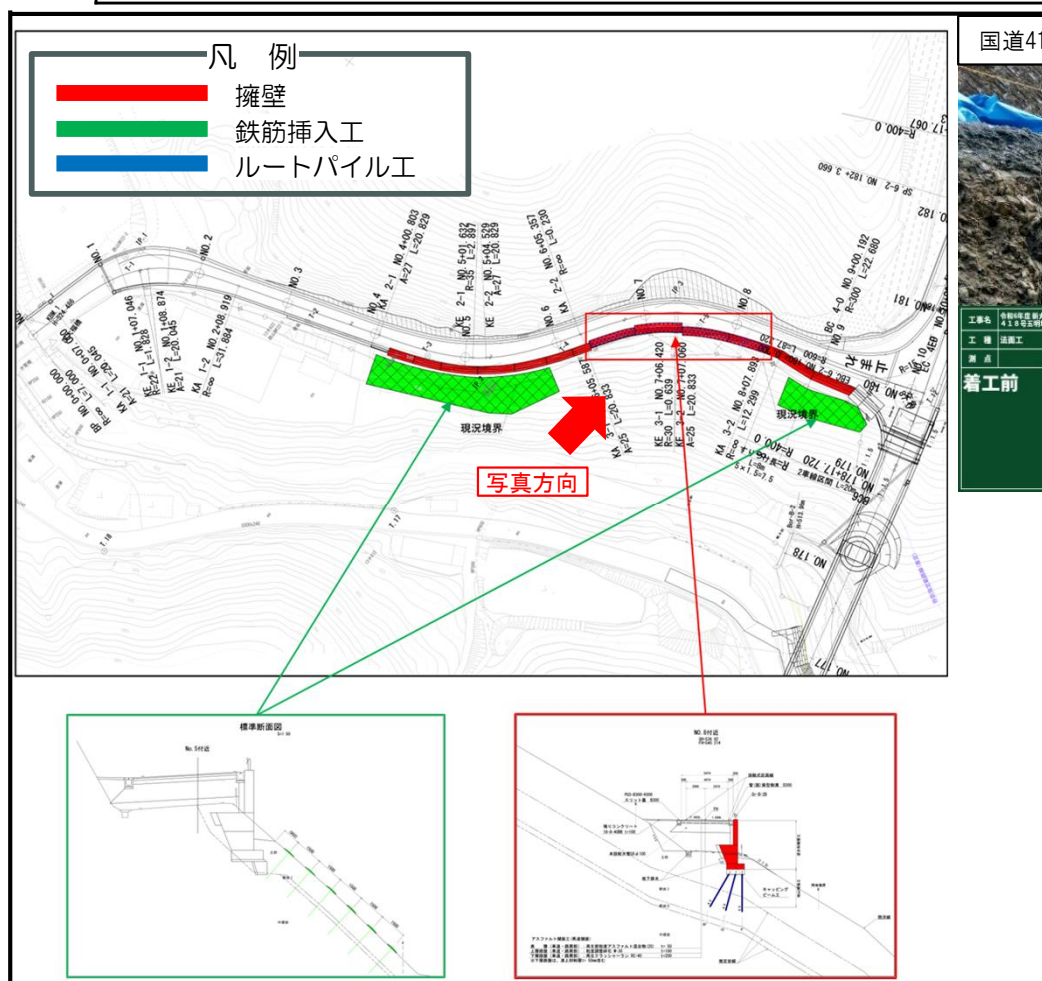
変更要因

【79百万円 純増】

国道418号付替道路工事中において、擁壁設置区間の一部の地盤が脆弱であることが判明したため、ルートパイル工及び鉄筋挿入工を追加で実施したことによる増額。

【42百万円 純増】

県道大西瑞浪線付替道路工事中において、土工部で重金属の含有が判明したため、場外搬出前の重金属判定ヤードを整備したことによる増額。



国道418号線 ルートパイル工施工状況



県道大西瑞浪線 重金属判定ヤード整備



3. 第3回計画変更(R6.8)後の事業費増減

- ・第3回計画変更後に生じた事業費増減については下表のとおり。
- ・R7年度予算における現段階の増額の見通しでは、ダム本体工事に関わるコスト縮減に向けた既設導流壁の残置のための検討による約130百万円、付替道路に関わるコスト縮減にむけた計画検討の追加による約56百万円等の増額が必要となっており、減額分を差し引いた合計額は約1百万円となっている。

		主な項目	主な理由	増減額	備考
令和7年度	増額	ダム本体関連(設計)	コスト縮減に向けた既設導流壁の残置のための検討に伴う増	約 +130百万円	P14
		付替道路関係(設計)	コスト縮減にむけた、構造物の規模縮小等による整備費用・維持管理費用を抑えた計画への対応検討に伴う増	約 +56百万円	P15
		付替道路関係	擁壁部の軟弱地盤に対する対策工法の追加に伴う増	約 +79百万円	P16
			重金属対応を行うための判定ヤードの整備の追加に伴う増	約 +42百万円	
		その他増	実績精査による数量増	約 +172百万円	—
		増額計		約 +479百万円	—
		その他減	実績精査による数量減	約 -478百万円	—
		減額計		約 -478百万円	—
令和7年度合計				約 +1百万円	—
過年度累計	増額	純増		約 +243百万円	—
		その他増		約 +500百万円	—
		増額計		約 +743百万円	—
	減額	純減		約 0百万円	—
		その他減		約 -655百万円	—
		減額計		約 -655百万円	—
	過年度合計				約 +88百万円
合計				約 +89百万円	—

※本ページの事業費増減には、実施時期の見直しによる増減(「前倒し増」および「先送り減」)は含んでいない

4. 令和8年度予算

1)実施内容

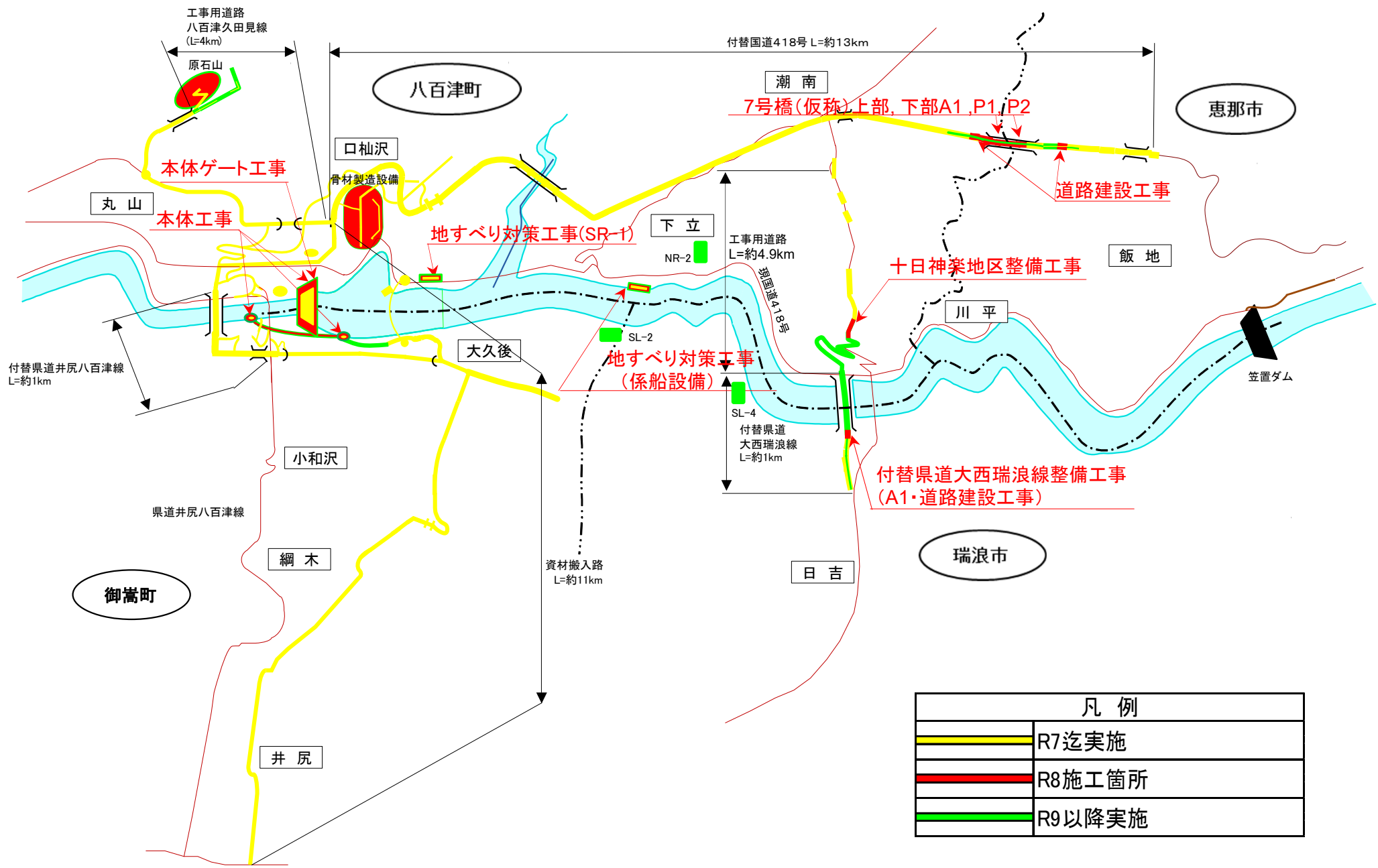
○令和8年度予算額

単位：百万円

予算費目及び主な実施内容		令和8年度当初予算	(参考値) 令和7年度当初予算	(参考値) 令和7年度当初予算変更	令和7年度補正予算
工事費		約 9,691.6	約 10,016.5	約 10,218.2	約 5,474.0
①施設維持等	工事用道路等の施設の維持・補修	約 138.0	約 77.5	約 105.7	約 60.0
②転流工関係	転流工工事	約 9,410.8	約 8,629.0	約 8,453.8	約 4,964.0
③ダム本体関係	ダム本体工事、ダム本体ゲート工事				
④ダム本体付属関係	工事用道路整備 地すべり対策工事	約 0.0	約 497.2	約 838.9	約 450.0
⑤管理設備関係	発電設備、受電設備設置等	約 20.0	約 685.0	約 707.9	約 0.0
⑥その他	工事監督支援等	約 122.8	約 127.8	約 111.9	約 0.0
測量設計費		約 995.7	約 1,302.1	約 1,452.1	約 443.0
①継続調査	水理水文調査、環境調査	約 116.0	約 101.9	約 108.6	約 0.0
②ダム本体関係	堤体設計、地すべり調査等	約 86.0	約 324.0	約 443.1	約 342.0
③付替道路関係	付替道路設計等	約 100.0	約 100.0	約 189.9	約 0.0
④用地調査関係	用地調査等	約 75.0	約 121.0	約 87.5	約 15.0
⑤その他	発注者支援等	約 618.7	約 655.2	約 623.1	約 86.0
用地費及び補償費		約 5,413.1	約 4,768.0	約 4,426.6	約 300.0
①用地補償関係	関西電力（株）等の特殊補償、用地補償	約 3,204.0	約 2,870.0	約 2,621.9	約 0.0
②付替道路工事関係	国道418号、大西瑞浪線の付替道路工事	約 2,209.1	約 1,898.0	約 1,804.6	約 300.0
船舶及び機械器具費		約 79.8	約 66.8	約 55.6	約 0.0
①電気通信施設保守点検等	電気通信保守点検等	約 79.8	約 66.8	約 55.6	約 0.0
事業車両費		約 15.8	約 5.9	約 6.8	約 0.0
①車両管理関係	車両管理・点検等	約 15.8	約 5.9	約 6.8	約 0.0
工事諸費等		約 638.5	約 631.6	約 631.6	約 9.5
①営繕・宿舍・車両・広報費等	庁舎・宿舍維持、広報等	約 638.5	約 631.6	約 631.6	約 9.5
予算額		約 16,834.5	約 16,790.9	約 16,790.9	約 6,226.5

※令和7年度補正予算は、令和7年12月16日に成立

2)事業実施箇所



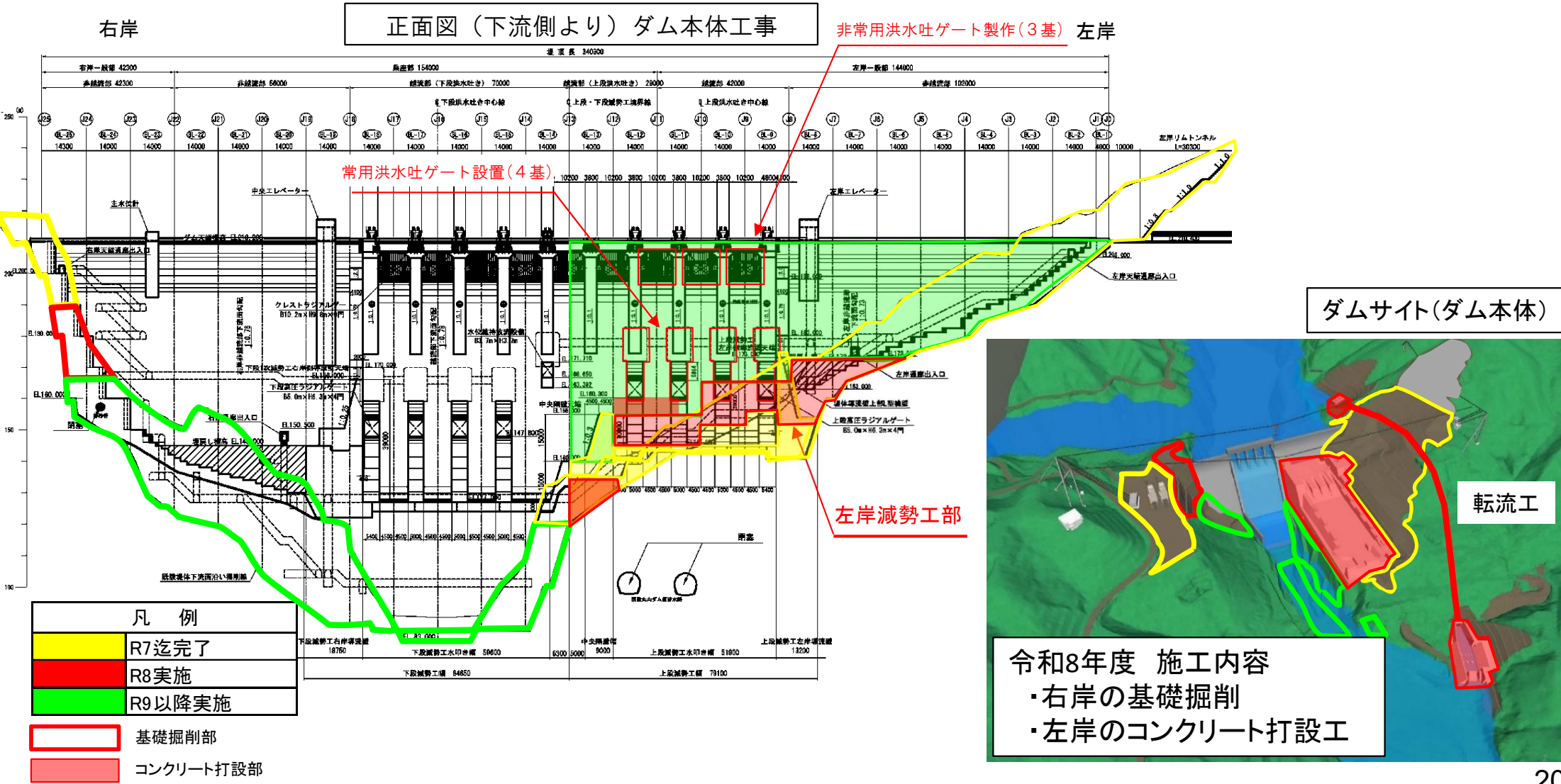
凡 例	
	R7迄実施
	R8施工箇所
	R9以降実施

3)個別説明

(1)ダム本体関係 工事費 (1/2)

ダム本体2期工事を令和6年度に契約、常用洪水吐ゲート工事を令和3年度に契約、非常用洪水吐ゲート工事を令和6年度に契約し、ダム本体工事を整備中。

当初(百万円)	実施内容
約9,410.8	①ダム本体2期工事において、コンクリート打設を実施し関連工事を継続する。 ②ダム本体ゲート工事において、常用洪水吐ゲートの設置を行うとともに、非常用洪水吐ゲートの工場製作を実施する。



3)個別説明

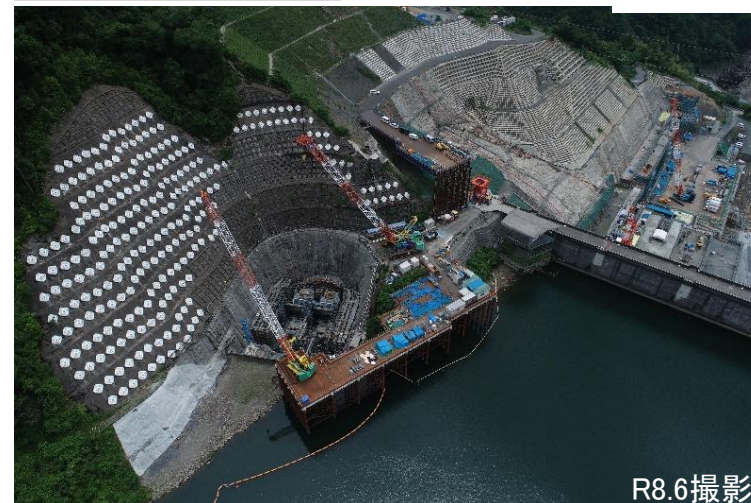
(1)ダム本体関係 工事費 (2/2)

当初(百万円)	実施内容
約9,410.8	③ダム本体2期工事において、骨材製造工を実施する。 ④ダム本体2期工事において、原石山の表土掘削や原石採取を実施する。 ⑤ダム本体2期工事において、転流工呑口部、吐口部のコンクリート打設工を実施する。



転流工呑口部現況 (Current status of diversion work intake section)

凡 例	
	R7迄完了
	R8実施
	R9以降実施



施工内容：原石山の表土掘削、原石採取 (Construction content: surface soil excavation and original rock collection)

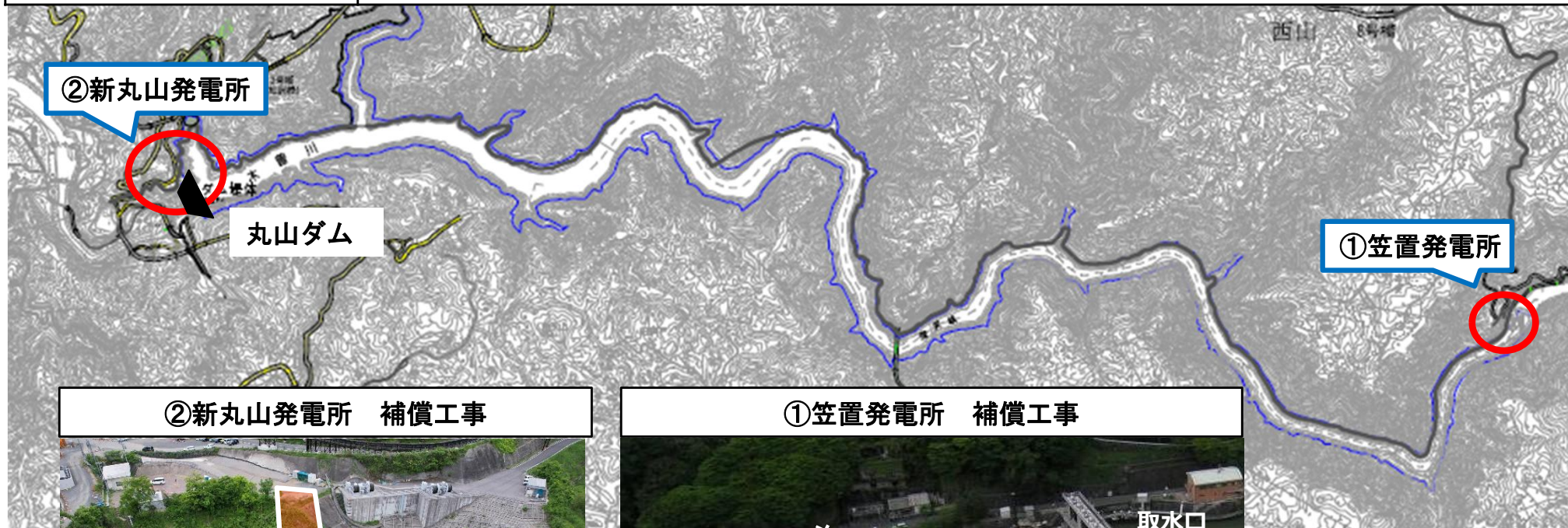


施工内容：骨材製造工 (Construction content: aggregate manufacturing work)

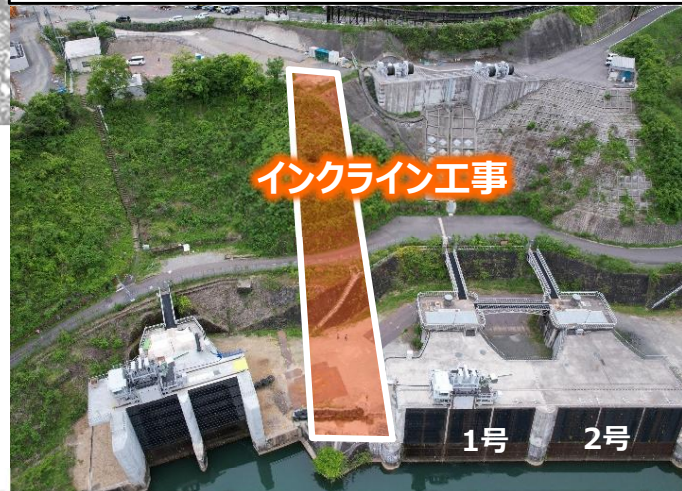
3) 個別説明

(2) 用地補償関係 用地費及び補償費

当初(百万円)	実施内容
約3,204.0	①新丸山ダム建設に伴うダム水位上昇の影響を受ける笠置発電所について、令和元年度から実施している防水壁嵩上げや放水路補強等の機能回復補償を継続する。 ②新丸山ダム建設に伴うダム水位上昇の影響を受ける新丸山発電所について、令和4年度から実施している発電取水施設等の機能回復補償を継続する。



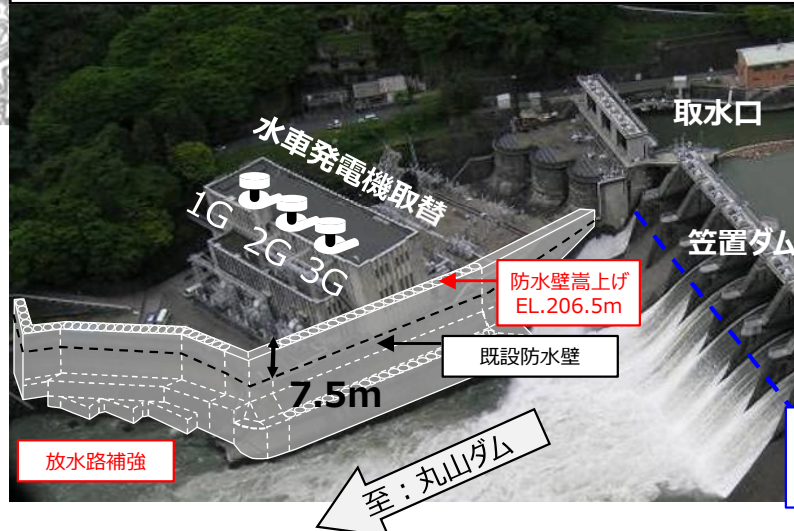
②新丸山発電所 補償工事



新丸山発電所取水口

丸山発電所取水口

①笠置発電所 補償工事



洪水時最高水位
EL.205.3m
(サーチャージ水位)

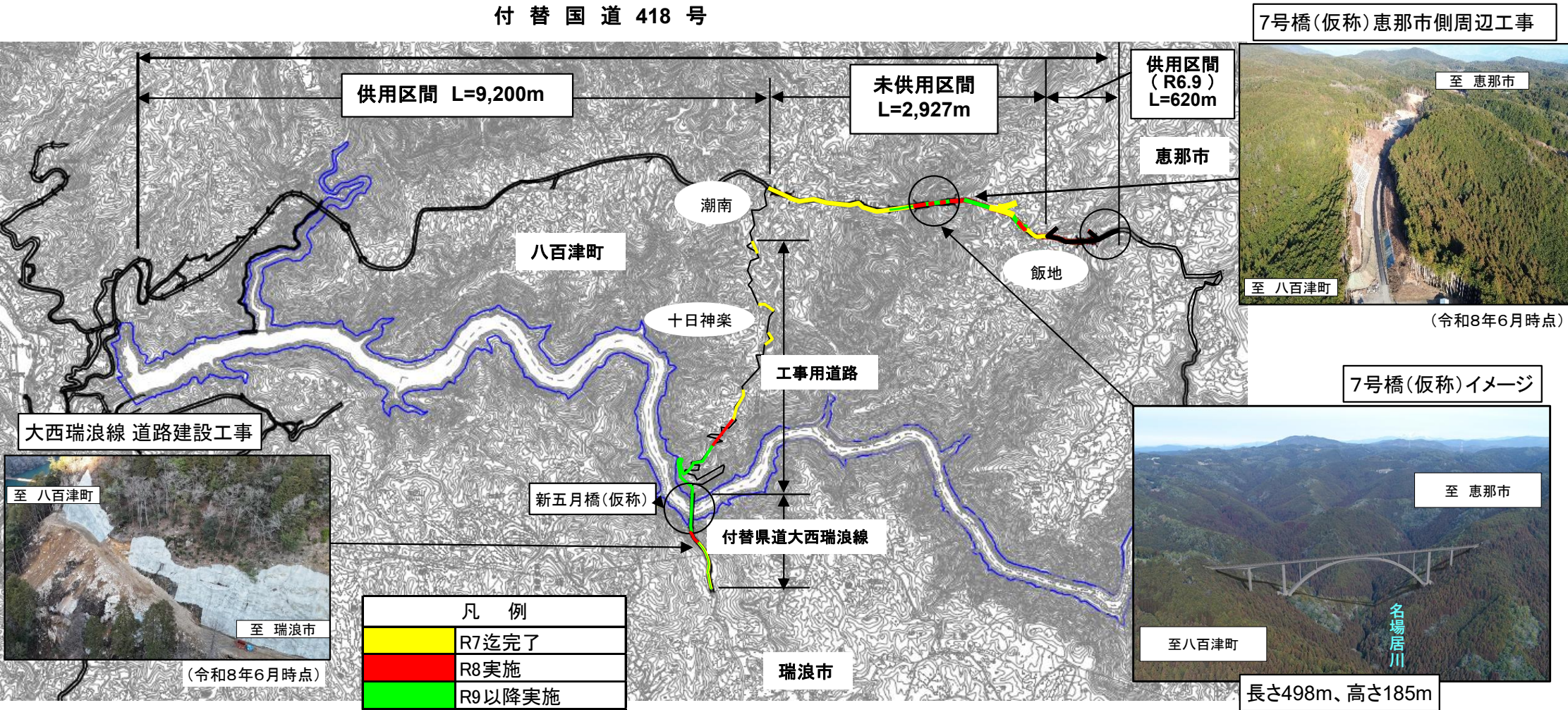
3)個別説明

(3)付替道路工事関係 用地費及び補償費

新丸山ダム建設に伴い現国道418号および県道大西瑞浪線五月橋の機能補償として、付替国道418号の潮南以東の未供用区間および付替県道大西瑞浪線を継続して整備中。

当初(百万円)	実施内容
約2,209.1	付替国道418号において、7号橋（仮称）下部工および進入道路工事を実施する。 大西瑞浪線において、新五月橋（仮称）下部工および進入道路工事を実施する。

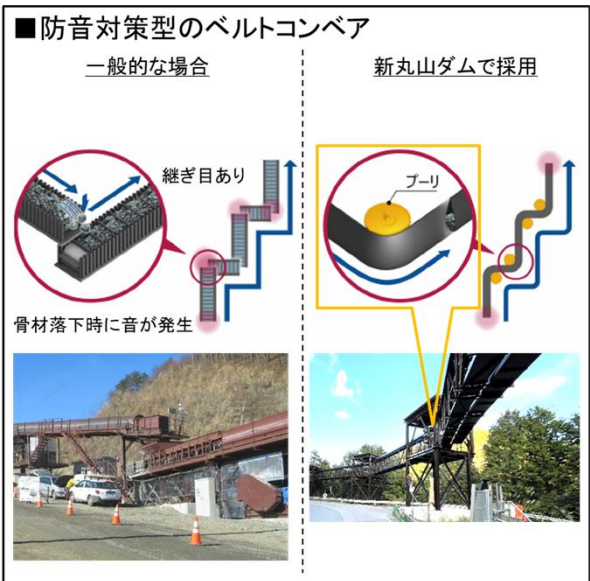
付 替 国 道 418 号



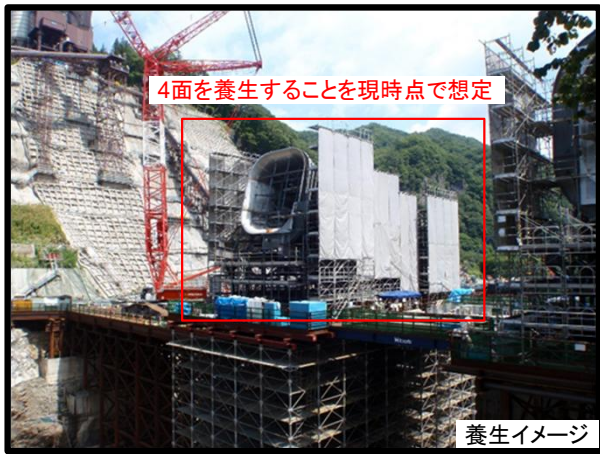
5. これまでに把握した状況変化

- 1) 本体工事の仮設備（骨材・コンクリート製造、骨材運搬等）について、地元住民から、設備の稼働に伴い発生する騒音を低減させるよう要望があったため、防音対策が追加で必要になっている。
- 2) 令和8年4月に付替国道418号7号橋の恵那側の橋脚工事現場において、大雨により法面崩落が発生したため、復旧対応が必要になってきている。

1) 防音対策の追加



■放流設備組立時の防音養生



2) 7号橋下部工事の法面崩落対応

- 『崩壊規模』
- 高さ約20m
 - 延長約30m
 - 土量約1300m³
- 人的被害なし
- 河川内への崩落なし
- 仮橋の被災なし



現在、計測管理の強化中
崩落拡大防止対策は5月末で完了



6. 本事業における工期短縮・コスト縮減

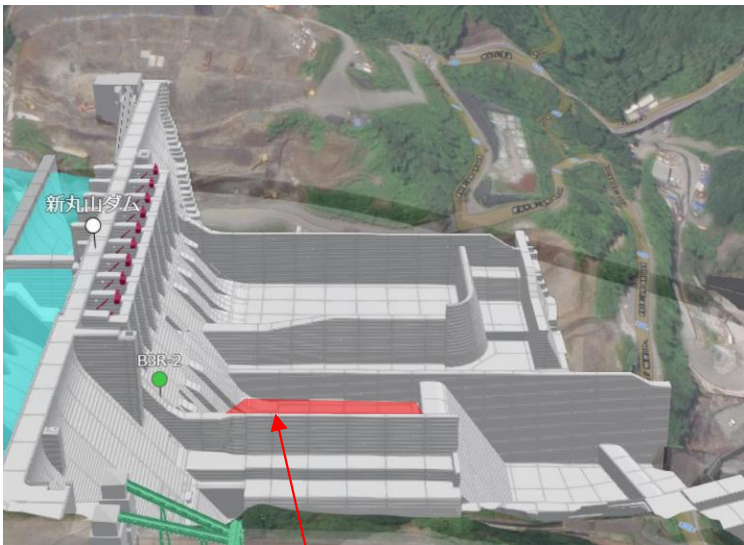
- 第3回計画変更(R6.8)以降も工期短縮策・コスト縮減策を引き続き実施する。
- 新たなコスト縮減対策として、他ダムで実績のある技術等の採用を検討するとともに、今後、新たに開発される新技術についても随時、本事業における適用を検討し、コスト縮減に努めていく。

主な工種	工期短縮策		コスト縮減策	
堤体工 (掘削、堤体打設、放流設備 等)	・堤体打設における作業効率の向上 (自律型コンクリート打設システム) ・河床掘削の前倒し実施 ・遅延剤の使用による打設可能日数増 ・下段一次減勢工の盤下げ ・既設丸山ダム導流壁の一部残置	【検討中】 【検討中】 【検討中】 【検討中】 (P26) 【検討中】 (P26)	・堤体打設における作業効率の向上 (自律型コンクリート打設システム) ・堤体基礎掘削岩の骨材活用 ・下段一次減勢工の盤下げ ・既設丸山ダム導流壁の一部残置	【検討中】 【検討中】 【検討中】 (P26) 【検討中】 (P26)
仮設備工 (骨材製造・コンクリート設備 等)	・骨材製造における作業効率の向上 (自律型コンクリート打設システム)	【検討中】	・骨材製造における作業効率の向上 (自律型コンクリート打設システム) ・脱水ケーキの自ら利用の検討	【検討中】 【検討中】
道路工 (工事用道路、付替道路)	・道路線形・工法の検討	【検討中】	・現地発生土の有効利用 ・道路線形・工法の検討	【検討中】 【検討中】
その他工事 (地すべり対策、法面对策 等)	・工法の検討	【検討中】	・現地発生土の有効利用 ・工法の検討 (貯水池伐採・地すべり対策)	【検討中】 【検討中】
管理設備工 (通信・警報・観測設備、建物 等)	・新技術等で適用可能なものがないか検討を進めていきます。			
諸調査 (測量、設計、環境調査 等)				

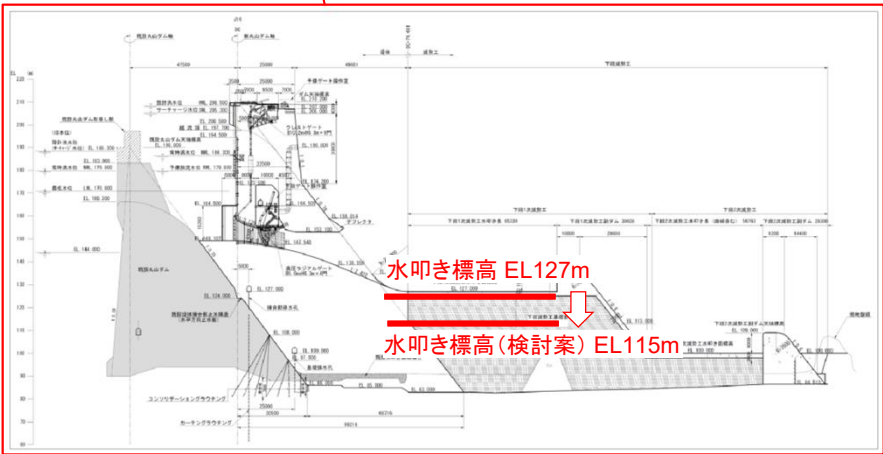
6. 本事業における工期短縮・コスト縮減

●下段一次減勢工の盤下げ

新丸山ダム施工中の安定性を国総研・土研と協議する中で、下段一次減勢工の水叩き標高を下げることで、コスト・工期縮減が期待できると助言を受けたことから、詳細の形状検討を行っている。

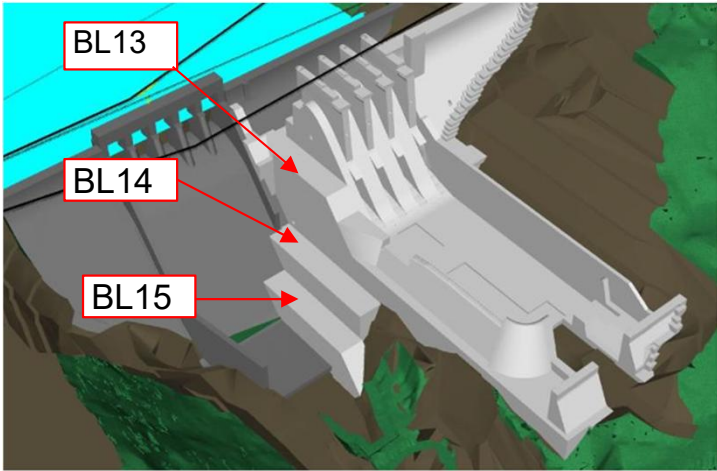


下段一次減勢工

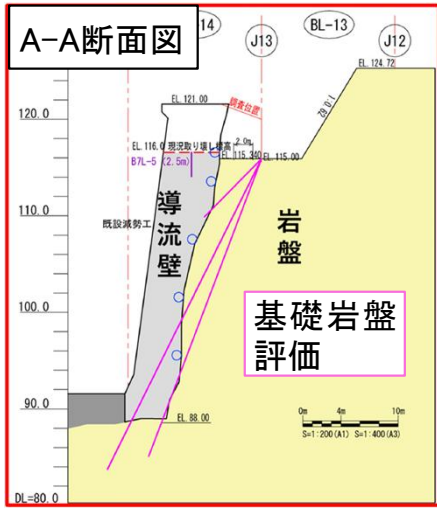


●既設丸山ダム導流壁の一部残置

現行案では既設丸山ダムの導流壁を撤去したのち、BL14・BL15打設→BL13打設とする計画としていたが、既設導流壁を一部残置してBL13を打設する方法へ変更することで導流壁の撤去費用やコンクリート打設量等縮減することが可能となるため、詳細の検討を行っている。



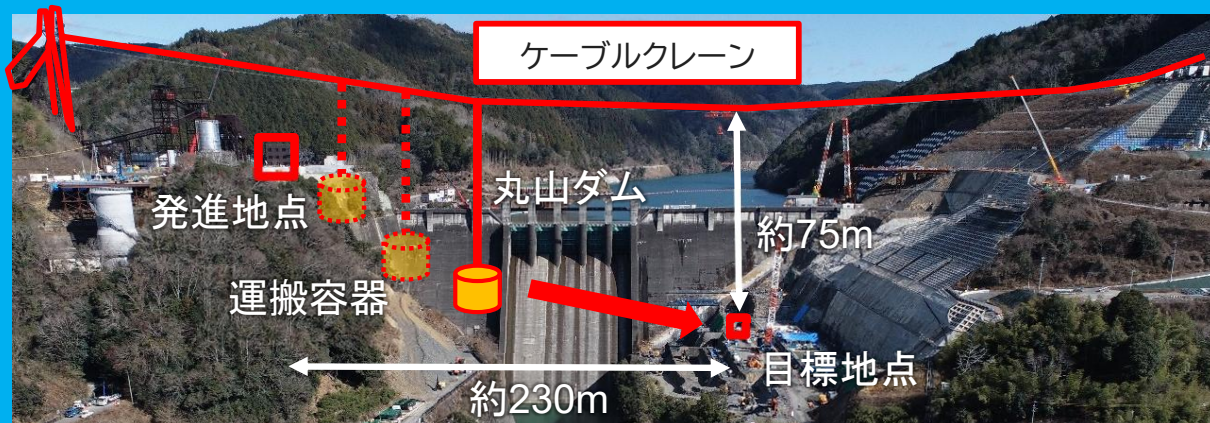
既設丸山ダムの導流壁 A



7. 本事業における取り組み(建設DXの活用)

- ・令和7年10月1日、新丸山ダム本体工事において、建設DXを活用した自律型コンクリート打設システム構築に向けて、第4回実証実験を実施しました。
 - ・今回の実験では、第3回実証実験で確立した技術であるコンクリート運搬に用いるケーブルクレーンの自律運転に加え、新たにコンクリート締固めに用いるバイバック(油圧ショベルに大型バイブレーターを取り付けた建設機械)の遠隔・自動運転を行い実用性を確認しました。このような実証実験を通して、ダム本体建設での生産性・安全性向上を引き続き目指します。
- 実験参加者:84人(国土交通省職員35人、工事関係者45人、報道関係者4社(4人))

【実証実験】



熟練した作業員の運転技術を自律運転で再現



目標地点までケーブルクレーンの自律運転で揺動を抑えて運搬・放出



バイバックによるコンクリート締固め動作の自動化を実現



バイバックの遠隔・自動運転(無人運転)

7. 本事業における取り組み(情報発信)

■若手職員(しんまる君PR隊)主体の事業PR

- ・地域住民の方々の、新丸山ダム建設事業への理解を深めてもらうため、若手職員(しんまる君PR隊)を中心に、現場見学会の開催や地域のイベントへの参加を通して事業のPRを実施。

一般向けの現場見学会の開催

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

令和 7年 11月 14日
中部地方整備局 新丸山ダム工事事務所

しんまる君 PR 隊主催の現場見学会を開催
～普段は入れない間近での工事進捗見学、クレーン乗車体験ができます～

新丸山ダム工事事務所には、「しんまる君 PR 隊」として若手職員が新丸山ダム建設事業に様々な形で発信し、皆様にも新丸山ダムをよりよく知っていただくための活動を行っています。

このたび、しんまる君 PR 隊を中心に、一般向けの現場見学会を開催し、事業概要説明、普段は入ることができない工事現場の見学およびクレーン乗車等の現場体験を行います。

1. 見学場所
岐阜県恵那市、加茂郡八百津町

2. 内容
①事業概要説明
②ダム本体工事進捗説明およびバス内からの骨材製造設備見学(骨材に触れる体験あり)
③付帯国道418号 7号橋(仮称)工事説明およびクレーン乗車体験
などが楽しめます。

3. 日時
令和7年12月2日(火) 【午前部】：9時～12時頃
【午後部】：13時～17時頃



重機に乗るなど
貴重な体験を企画

R7.11 八百津産業文化祭へのブースの出店



■工事現場見学会の開催

- ・AR(拡張現実)機器を用いて、今しか見られないダム本体工事等の現場見学を実施。
- ・令和6年度に現場を訪れた人数は2129人。令和7年度は、2148人。



大学生による現場見学会



見学者数の推移

■SNSによる工事情報等の発信

- ・丸山ダムの管理や新丸山ダム建設事業に関する各種イベントや工事情報等についてSNSに掲載し発信中。
- 令和8年7月には、フォロワー数1,900人を突破。



7. 本事業における取り組み(地域振興)

■「新丸山ダム水源地域協議会」の開催

- ・丸山ダム周辺における自然、文化、伝統等の地域資源とともに、新丸山ダム建設に伴う基盤整備等を活用して、新丸山ダム周辺地域(瑞浪市、恵那市、八百津町、御嵩町)の振興に資する効果的な施策の検討を目的として「新丸山ダム水源地域協議会」を実施しており、「新丸山ダム周辺地域振興ビジョン」を令和5年3月にとりまとめた。
- ・新丸山ダム周辺地域振興ビジョンを基に、「魅力をつなぐプロジェクト」として、2市2町と新丸山ダム関係機関が連携して取り組みを加速化させる具体的な地域振興策をとりまとめ、グルメ・自然アクティビティ・歴史文化・防災・情報発信をそれぞれプロジェクト化およびアクションプランを計画し、2市2町の観光×防災パンフレットの製作、アプリを活用した観光モデルコースの情報発信等を実施している。

新丸山ダム周辺地域の目指す地域振興



■第7回新丸山ダム水源地域協議会(R8.2.27)

令和7年度の取り組み

○観光×防災パンフレット作成

○観光アプリ「Spot Tour」を活用したデジタルスタンプラリー

○地域住民への工事進捗現場見学会

○水源地協議会として地域行事に参加

○八百津町産業文化祭で水源地協議会のロゴマークの缶バッチを作成

7. 本事業における取り組み(工事車両通行に伴う地域への対応)

ダム本体工事全体配置図



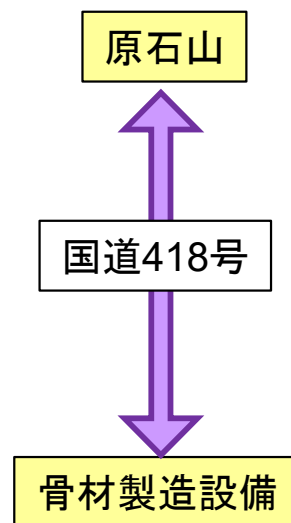
7. 本事業における取り組み(工事車両通行に伴う地域への対応)

■骨材及び建設発生土の運搬について

- 当初は、原石山で採取した骨材と建設発生土(骨材として利用できない材料)を、骨材製造設備および建設発生土受入地①へ、国道418号を利用して運搬していました。
- その後、交通安全対策として原石山近くに建設発生土受入地②を設け、建設発生土は、こちらに運搬することで、国道418号を通行するダンプ車両を削減しています。
- さらに、令和7年4月からは、骨材製造設備で荷下ろししたダンプ車両の一部を町道杣沢小洞線経由で原石山へ戻すことで、国道418号への交通集中の緩和を図っています。

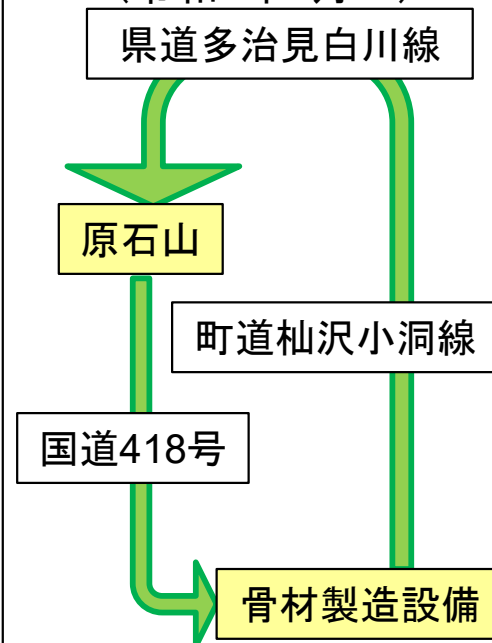


国道418号線を
往復するルート
(～令和7年3月)



行きも帰りも
国道418号を通行

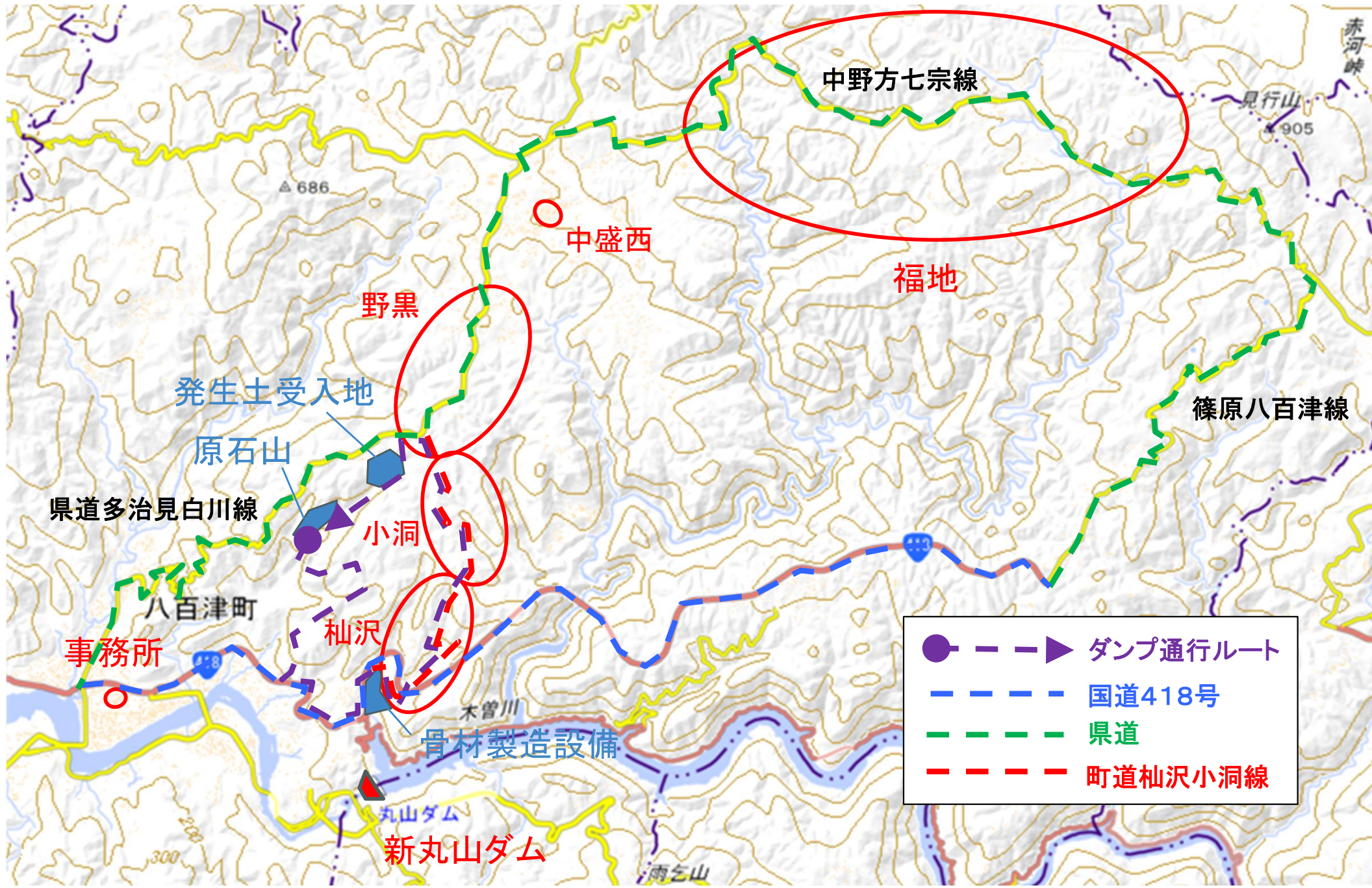
復路のみ町道杣沢小洞線を
通行するルート
【一部のダンプのみ】
(令和7年4月～)



帰りのダンプは
国道418号を通行しない

7. 本事業における取り組み(工事車両通行に伴う地域への対応)

■個別説明自治会とダンプ通行ルートとの位置関係



7. 本事業における取り組み(工事車両通行に伴う地域への対応)

■これまでの経緯・地元説明状況について

国道418号交通対策として、町道を利用したループ走行を検討



令和6年7月 町道ループ走行 実走テスト

実走テストの結果から必要な対策を検討



令和6年10月4日 沿線3自治会説明

ループ走行の了解得られず。地元で道路委員会を立ち上げる。今後は道路委員会と調整



R6.10.4～R8.7.7までに

道路委員会 8回

個別自治会説明 12回 開催し説明

令和8年5月29日～7月4日 沿線5自治会説明

道路委員会の意見を受け、希望する全ての自治会に個別説明。(4地区同意。1地区未同意)



令和8年7月7日 道路委員会

道路委員会の総意として国が提案した対策を実施することで『国に任せる』との結論



委員会総意をうけ、順次ダンプ通行台数を増加させる予定
(未同意1地区へは引き続き説明会を実施(7月20日、8月1日(予定)))

7. 本事業における取り組み(工事車両通行に伴う地域への対応)

■これまでの経緯・地元説明状況について

- ループ走行の実施に当たっては、町道杣沢小洞線の管理者である、八百津町役場との打ち合わせのほか、道路委員会や個別自治会への説明を重ねてきました。

年度	町道杣沢・小洞線 道路委員会	個別自治会	八百津町	備考
R6	11 月 道路委員会設立	10 / 4自治会説明	同席	八百津町打合せ 8回 自治会長説明 11回
	3 / 27 第1回道路委員会		同席	
R7	9 / 3 第2回道路委員会		同席	八百津町打合せ 26回 自治会長説明 3回
	9 / 19 第3回道路委員会		同席	
	10 / 30 第4回道路委員会		同席	
		11 / 16自治会説明		
		11 / 21自治会説明		
		11 / 30自治会説明		
	12 / 9 第5回道路委員会		同席	
		12 / 23自治会説明		
R8		12 / 26自治会説明		八百津町打合せ 8回
	1 / 8 第6回道路委員会		同席	
		3 / 28自治会説明	同席	
	5 / 14 第7回道路委員会		同席	
		5 / 29自治会説明	同席	
		5 / 31自治会説明	同席	
		6 / 7自治会説明	同席	
		6 / 14自治会説明	同席	
		7 / 4自治会説明	同席	
	7 / 7 第8回道路委員会		同席	
		7 / 20自治会説明(区長説明)		
		8 / 1自治会説明(予定)	同席	

7. 本事業における取り組み(工事車両通行に伴う地域への対応)

R8.7.22時点

■ダンプ通行時の安全対策の実施事項

- ・ ゆずりゾーン(4ヶ所)+1カ所追加予定
- ・ センターライン(八百津町が実施)
- ・ 通行台数の明示(2ヶ所)
- ・ 交通誘導員(3ヶ所)
- ・ 降雪時の運転前道路点検
- ・ 必要時融雪剤の散布
- ・ 歩行者保護を優先とした運転
- ・ 通学バス、福祉車両優先
- ・ 地元車両優先
- ・ 緊急車両優先
- ・ 町道区間 最大40km/h運行の厳守
- ・ 急カーブ区間での徐行の厳守
- ・ 原則センターラインはみ出し禁止

※ 歩行者等を避ける場合は、前後の車両や周辺の安全を確認してセンターラインを越えて運転する場合があります。

- ・ 連行しないよう出発管理
- ・ GPSによる運行管理
- ・ 全車ドライブレコーダー搭載
- ・ 安全教育の徹底(新規入場時、毎月)
- ・ 運行経路ハザードマップの活用
- ・ ルール違反運転手の退場措置
- ・ 通行時間 平日8:00~17:00(土日祝日は通行無し)

通行区間位置図

